

The Founder of Rotary

Paul P. Harris 1928

ロータリーの創設者
ポール・ハリス

米山梅吉 訳

目次

第一編

ニューイングランドの家	9
隣人クーリツヂ	13
宣戦	13
媾和	5
少年時代	17
初めての友	23
山の誘惑	26
いたずら好き	30
学校時代	32
祖父の死	36
就職	39

第二編

ニューイングランドよ、さらば	42
ホーレース・グリーリーの如く	44
回顧	46
西のかた	49
新聞記者の経験	51
運命の戦士	53
デンヴァー	55
フロリダ	58
難航	60
博覧会见物から又の旅へ	67
成功の秘訣	68
オレンジ挽ぎの仕事	71
忽然恐怖	73

第三編

旧友の許に帰る

77

五年修了前の欧州旅行

80

投錨

85

再び過去を顧る

88

法律の実務に就く

94

御用無しの実業道徳

97

時期好転

101

市俄古に於ける探検

103

ボヘミアン生活

104

ロータリーのご概念

110

クラブ社会的の運動となる

118

活動から隠退へ

122

親心

126

第四編

妻と家庭

帰省

友誼

行動の教義ロータリー

将来は如何

131

131

137

142

144

146

ロータリーの創設者 ポール・ハリス

第一編

市俄古の北六十哩、ミルラーキーの南二十五哩、北米第二位の大潮ミシガンの沿岸に、レイシンといふ小さな都市がある。レイシンの名が米国内に広く知れ亘って居るのは、此の市が幾つかの国家的に重要な製造工業を持って居るからである。併しレイシンの市民は製造工業にばかり没頭して居るのではない。其処にはレイシン大学を中心とする文教上の関心もあるのである。

此処の市民の中に最も光彩を放った二人の名士の一人に、第二次の市長に挙げられた、ヘンリー・ブライアンといふ弁護士があつた。ブライアンの父は紐育州西部の草分けの一人で、祖父はマサチエセツツの産、また曾祖父はアイルランドから移住した人であつた。この曾祖父の時に偶々旧姓オブライエンを転化して、ブライアンと改称したといふことであるが、その理由の何故かは筆者とても知らない。



ポールの生家

ヘンリー・ブライアンは、例の1849年の金鉱熱時代にカリフォルニア探検隊を組織して其の牛耳を取り、計劃財政万端を自分に引受けて成功を夢みたのであったが、此の冒険の結果は、死後彼の未亡人に遺すに、唯だ小さな家庭以外の何物をも以てしなかつたといふ有様であつた。ブライアンの末娘はコーネリアと言つて、ヴァーモント州ヤーリングフォードに住むハワード・ハリスといふ人の息ジョージ・エイチ・ハリスなる一商人に嫁した。

ジョージとコーネリアとの間の第一子はセシルと名づけ、その次男はポールと呼んで1868年4月19日の生れであつた。

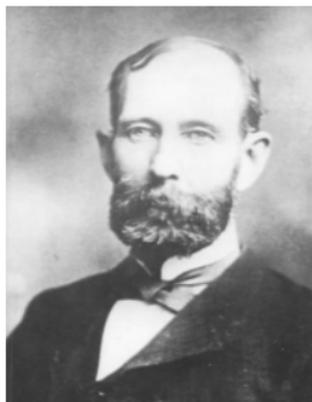
セシルとポールとは、いつも一緒に近所の子供等と遊んだが、セシルは毎日腕白な弟の面倒を見ねばならなかつた。よく浮か浮かかと思つた急な堤防などを下つて、鉄道線路に彷徨ひ出たりしたものであるから、そんな時には、ポールを引張り上げるのに、近所の子

供達が殆ど総掛りで努力しなければならなかった。

ポールにとって一番好い遊び場所は町の中央であった。当時は未だ道路規則などは必要でなかった時代であったので、ポールは自分で勝手に、車馬の通行よりも子供の遊びの方を

大事だと極め込んで居た。セシルはこの小さい弟の判断が間違つて居ることを認めて、走って行く馬の蹄の下から、腕白な彼を攫み出さなければならぬということもあつたので、さうした時のセシルが大抵酷く引搔かれて痛い目を見せられたといふことは、ポールたるもの今日に於て大いに恐縮せざるを得ない所である。

ジョージとコーネリアとを拘束するものが仮りに幾つかあつたとして、その中で彼等兩人の少しも構はずに居つたものは、節検とか吝嗇とかいふ事であつたらう。二人ともに寔に申分のない消費者であつて、家計予算などいふ観念は、彼等のたちどころに拒否するところであつた。金は費ふべきもので、



父 ジョージ・ハリス

無くなったら儲ければ可いと云ふことが彼等の最も是認した方針であった。実際其の方針が続けられた間はまことに愉快であった、そして夙くに続かなかつた筈のものであるのに、比較的其れが永続したといふことには理由があつた。小切手を振出して簡単に消費するのはジョージ夫妻であつたが、その小切手には、寛大ではあつたが同時に節儉家であつたジョージの父、ハワード・ハリスの裏書が要求されて居たからである。レインの「マニユファクチュラーズ・ナショナル・バンク」の社員等は、早くから此の緘黙の連帯責任者の署名を尊重することになつて居たのである。

併ながら凡て良い事柄といふものはやがて終末に来るもので、ハリス一家



母 コーネリア

のウイスコンシン州レイシンに於ける居住も打切られねばならぬ時が来た。

1871年7月の或る夜、ジョージ・ハリスは二人の子供を連れてミルラーキーに出で、其処からバッファロー行の汽船「オネイダ」号に搭乗した。子供等は父の両親の家に行くのであ



フォーリングフォード駅
現在は消防署

った。コーネリアは独りレイシンに残って一時的の住居を定め、幼いニナ・メーの養育を計ることになった。ニナ・メーは後年デングヴァーの、今は故人となったルシーン・アポットに嫁いだ。

コーネリアは不如意なる事情が彼女の上に課した重荷を、勇気とそして彼女の貴い血統に応はしい高尚な目的とに立って、能く耐へて行った。

ニューイングランドの家

フォーリングフォードの第一夜の非常に淨らかな神聖な記憶は、二人の子供の生命のある間は永続するであらう。夜も十一時であった、祖父なる人は今シラットランドからの列車を降りる小さな一行を迎へた。他には一人の乗降客も無かつた。駅長はもう夙うに寢床に行つて、総てのものが静寂な暗に包まれた中に、燈火と祖父

を囲んで立った小さな群れだけが薄明りに浮んで居た。

それは厳肅な瞬間であつた。その厳肅さは、平行する二た条のグリーン山脈に横はる平和な狭間に、その夜の静寂と暗黒とによつて一層深められた。ポールの小さな拳は祖父の大きな掌にしっかりと握られた。ポールは今までに斯んな大きな、そして斯んなに温い掌にこれ程しっかりと握られたことはな
いと思つた。この一行が小さな沈黙の街路を歩いた時、ユラユラと揺れる提灯の光に奇怪な影法師を路辺の自塀に踊らせるのであつた。

それから別の光景が感受性の強い記憶のフィルムに永遠に焼付けられた。やがては二人の子供の幼い方に母の役目を勤める人であつた一人の婦人が、石油ランプをかざして入口に現はれ、戸外の暗夜を窺ふのであつた。彼女は體量正に89封度を出でぬ小柄な黒眼の婦人で、其姿が祖父の側近くに立つた時、恰もランプの光を受けて棒立ちに立つて居る碧眼長身の祖父に対して、如何にも不釣合に見へた。彼女は倅とそして件の子供達に痛はしげな



祖父



祖母パメラ

愛情の籠った挨拶をした。生活の戦に敗れて生家に立戻つて来た人の子の物語は、書かずもがなであらう。思遣りの優しい絃が触れた時、母性は最も玄妙な音色に高鳴りする。

疲れた空腹の子供等にとつては、牛乳の饗

応が一番応はしいことを祖母はよく知つて居て、食卓の中央に大きな牛乳鍋を用意してあつた。その牛乳鍋の側には深い皿が置かれてあつた。最初子供等にはその皿の中に何があるか見へなかつたが、それは山から取つて来たばかりの新鮮なブルーベリーだつた。また外に三枚の台皿の上に夫々黄色い鉢が乗つて出て居た。子供等の眼には此の鉢の一つは何となく怖しく映じ、また他の二つは親しく懐しく見へた。尚ほ今一つの御馳走が彼等を待つて居た、それは祖母の手製にかゝる麵麩に初めてお目に掛つたことだ。一體腹の空いた子供の體內には、驚くべき程の空隙のあるものであるが、祖母は能く此の事を心得て居た。その夜初めて此の事実を知つたものは、親切な黄色い鉢であつたらう。

やがて子供等は、未だ嘗て見たこともない程フクフクと膨れ上った寢床に寝かされた。

父の説明に依ると、其れは彼等珍客の為に新しく清潔な麦藁で特別に仕立てられたものであった。寝前の祈祷をすませて、子供等はベットの頭部の方に寝かされたが、それから祖母の接吻に、明けて山家の幸福に醒めるまで、ポールは何事も覚へなかつた。たゞ彼自身と寢床とで、藁の方が膨れ上つて居るのか、それとも麵麩と牛乳とブルーベリーとで自分の腹がフクフクになつて居るのかといふやうなことを、有耶無耶の裏に言い争つたことである。



祖父ハワード・ハリス邸

隣人クーリツヂ

その同じ夜、東の山を越へて17哩彼方の今一つの平和な山狭に、他日一大国民の首脳者として活動すべき血と骨とを作りつつ他の一人の幼い男の子が眠って居た。その名はカルヴイン・クーリツヂであった。

宣戦



ポール 3歳

美しい輝いた朝は来た。そして其処には此の平和を家庭の内に争ひを醸しさうな何物も見へなかつたのに、茲に事件が起ることになったのである。この時ポールは三歳であったが、それ迄に彼は喧嘩相手が偶々父か母でなかつた限り、末だ嘗て一度も相手に降参するといふことを

知らなかった。平和に明けたその朝、ここに他の一個の人格が自らを主張し始めたのだった。それは確かに親切な人で、また麵麩と牛乳とブルーベリーに於ける天才であったが、併し同時に命令的で君臨的であった。言ふ迄もなくそれはポールの祖母その人であった。ポールの考によると、年寄が子供に衣着物を着せる一番よい方法は、何も構はずに置いて自分の仕事をして居るに限るのであった。所がこの小つぼけな齡をとった貴婦人は、まだ他人同様の人であるのに、次から次へと命令を濫発するのだ。「ポールや、此処へ脚をお出し、私が靴を穿かして上げるから」とか、「これをなさい」とか「あれをなさい」とかいつた具合であった。

遂にポールは、「赤黒いマーミオンの類は火のやうに燃へて、怒りに五體は打震へ」と云ったような、そんな心持を痛感してしまった。

最早事は人間の忍耐点を突破したと感じた彼は、祖母を直視してどう



兄 セシル 5歳

とう最後通牒を投げつけた。「僕はもうお祖母さんなんか知らないッ、お祖母さんは僕のお母さんぢやないよ」。祖母が「そうかい、それでは、」と言って答へた声は幾分か渋って聞こへた。そしてつと立つて行つたが、やがて父を現場に引っぱつて来た。

「この子はお祖母さんなんか構はないさうです。私はお母さんではないんですつて、どうしたものでせうネ」。

「ポール……」、父は彼に言った。「お祖母さんのお仰ることは何もかも心にとめて聞かなければならないよ。お前は忘れっぽいが、今私の言つて聞かせることを能く覚へて居るのだぞ。さあこれから二人で物置小舎の方へ少し歩かう」。

媾和

ポールの感覚は可なり鋭く生れついて居た、彼は父の意味する所を能く覺つた。殊に父が斯んな風に言ひ聞かせる時に、父の心持を良く理解した。勝

敗は定まった、そしてポールはそれを悟った。それからどうしたか。言ふ迄もなく彼のやった事は、彼と同じやうな大きさの敏感な子供達が同じやうな場合にするであらう所と同じであった。彼は急いで退却した。退却の秩序如何などは一切お構ひなしに。それから其の日の後になつてから……

筆者はポールが恥を知らないオベツカ者と思はれるかも知れないといふ危険も構はずに話す次第だが：彼は祖母の膝に攀じ上つてその顔を自分の顔に引き寄せた、そして慎重にこの敵に接吻を与へたのであった。

筆者が以上の珍しくもない出来事に就いて比較的長々と話したのは、それが年経て後の彼に持ち続けられた彼の一面の性格を能く示して居ると思つたからである。此は彼が他日大きな團體組織に基礎付けやうとした場合にも影響して居るのであった。彼は今日まで自分の敵に対して自分の厭やな感情を深めて行つたり、苦い情緒を育て上げて行つたりすることを決して自分自身に許したことがない。彼は色々な事柄に関係したが、未だ嘗て多くの敵を作つたことはなかつた。

少年時代

それから興味深い目新しい発見の幾日かが続いた。ミシガン湖の憧憬はまだ無かつたが、その代り林檎や桃や胡桃などの大きな果樹林があつた。老ひたる乳牛とその末の娘、鶏とひよこの群、大きな花畑と少しの草原とを控へた庭園、そして遙かに続く美しい山々。

其れ等は皆なポールにとって珍しい風物であつた。尤も花園などは余り立派なものではなかつたらう。或時西部から来た一人の少年が此の花園を自慢らしく見せられた時に言つた、

「何だこんなもの、まるで石ころばかりじゃないか」。

併し兎も角其処には何かが生えて居たのだつた。筆者は昔語りが粗つぽくて、ヴァーモントでは羊が栄養を石塊の間に搜して其処に這入り込む為めにその鼻が尖がって居るのだと云ふようなことは誇張である。併し筆者は保証



ポール 6 歳

する、ラットランド地方一帯の企業的な地主は、自分の邸宅全體の周圍に、其屋敷内から切り出した石材で作った高さ6 呎幅12 呎もある立派な石塀を建てめぐらして居る、恐らく何時までたつても破壊しないものであらう。そして此の広い石塀の上は、二組の荷馬車が充分に徐地を残して入替はるこ
とが出来ると云つても可い程のものである。

子供達がフーリングフオードに着いた時は、その氣の利いた服装と言ひ、足にしっくり合つた靴と言ひ、周囲の風俗に比較して立派な小さい紳士に見へた。併し祖母は祖母だけの考を以て子供を仕立て上げることに取掛かり、彼等の衣物は一枚一枚別なものに着更へさせられて行つた。其れは善良なお針婆さんのマーガレット・マクコンネルが新しく裁縫したものであつた。祖母の意見では子供に一番適当な夏の仕度は、緑の広い麦藁帽と、ボタンでズボンと連絡して居る胸衣とであつた。そして西部から来た二人の幼い人間達は、日曜日の外は何時も明けても暮れても、これで飛んで歩いて居た。其れは何といふ爽快な服装であつたらう。



ウォーリングフォード全景

幼い者よ幸せなお前は

足は蹠類は日焼け

捲くれ上ったパンタロンで

口笛が愉快地に響くぢあないか

ワーリングフォードの夏の時節に一ついけないことがあった。それは一日が半分の長さしかなかったことだ。まだ燕共が古いお寺の塔の困りを飛び廻って居るのに、そして遊びが正に佳境の頂点に渦いて居る時、召集命令がちゃんとやって来た。「さア、セシルもポールも、バケツにお揚が取れたよ、石鹼もあるよ、早く足をお洗ひ。寝る時間ですよ」併しいつも明日の朝の楽しみに慰められるのだった。泉からの清い冷い流れ水に顔と手を洗ってから向う朝食の膳には、揚げ立ての馬鈴

薯のフライとバックホークトのケーキに楓糖のシロップが供へられるからだ。土曜日の晩といふと祖母は子供等を古い家伝の浴槽に浸して猛烈に洗ひ出すのが常だった。そして日曜には早朝にロツテイ・タウンセントの日曜学校に送り出した。

その年の暮に二人の少年は揃って、村の学校の幼学部のミス・シアーマンに托された。その第一日の事がよく記憶に残って居る。遊歩時間になった時、古い生徒達は可愛想なポールの周囲に忽ち群がって踊りながら嘶し立てた、「やアイ、見ろやアイ、をんな男やアイ」。

彼は堪へられない屈辱を感じた。その夜祖母は涙を振って彼の気障りな卷毛を刈り取ってしまった。父もセシルも長くローリングフォードに停まれない運命を持って居た。彼等一家の幸福は、或は非運は、間もなく彼等を捕へたのであった。所々に何度



ポールの通った小学校 現在はロータリー記念館

か一時的の居住を替へた後、彼等は結局フェア・ヘーヴンに落付くことになり、其処でジョージとコーネリアは新たに三人の子供を挙げた。一人はガイ・ハワードと言つて1889年に11歳で此世を去り、今一人はクロワード・ハロルドと言ひ、これ亦フリツピンで国の為めに戦て死し、末子であるレジナルド・クレイトンは今はワイオミング州立大学の教授を勤め、ララミーのロータリー・クラブ員である。

このレジナルドは、1917年に職を棄て妻子を残して世界大戦に参加しやうと企てた。一度は彼の健康に欠陥があつて従軍を拒否されたが、その欠陥は外科的治療によつて救治されることを知り、早速その手術を受けて二週間を病院に暮らした後、再び募兵試験を受け、遂に採用されたのであつた。

セシルとポールとの別離は一個の悲劇であつた。一度フーリングフォードで訣かれた後は、一年か二年目、または夏季休暇などの時の互の訪問を除く外は、遂に少年時代を通じて再び一緒に暮す時は来なかつた。然しながら少くともポールは之に対する一つの償ひを得た、其れは祖父母の愛の独占であつた。昔のニューイングランドの特徴であつた高尚な、理想の風習を充分に

尊んで居た規律正しい家庭において、自己犠牲の精神に富んだ祖父や祖母の撫育と恩愛とに、独りで浴することが出来たのである。その家庭には一つの冗談すらも聞かれなかった。朝も昼も晩も話すと云へば高尚な事柄ばかりであった。宗教の自由と政治の自由とは正しい当時の秩序であった。ブルツクスやフィリップスやガリソンやの言葉が未だ反響を漂わして居た。エマーソンやホルムスの哲学、ソーローの自然科学、ロングヘエロー、ホイテューア、ブライアンの詩歌は、ピュリタン精神の剛性を柔げる役をして居た。異説に対する迫害は、米国の歴史の最も馬鹿げた間違ひであると云ふことが正当な裁断となり「スカーレット、レター」の傷痕も、早や消えなんとして居た頃である。

祖父は寡言の人であった。彼は未だ充分に発達しない教育機関に依つて養成された人であつたが、なほ教育を重んずることは何よりも大であつた。暑い夏の午後などに能く彼は孫を裏庭の小舎に伴れて行つて、昔のスペリングの書物について種々な言葉を嚴格に発音して聴かせた。祖父の教へに対してポールは、時折は反抗したのだが、彼のやや啓発し掛つて居た頭脳は深く



ポール 15 歳

初めての友

印象づけられる所があり、後年彼は祖父の理想であった職業：それは法律の実務であった。・を自ら選んだのであった。若し彼が今日までに行った事に何か功績らしいものがあつたとすれば、其れは全くニューイングランドの家庭で受けた薫陶のお蔭である。ニューイングランドの二人の善良な人の献身的な養育から得た利益を、彼は如何によく是認し、如何に深く感謝して居るか。それは到底言葉などでは表現し得ないのだ。

セシルが去つてからの或る一日、ポールは同年輩のフエイ・スタフォードといふ少年と知り合いになった。ところが此のフエイの髪の色と言つたら恐らく何人もこれ程に赤い毛を見たことがあるまいと思はれる程で、その赤きは丁度燃へ盛る火のやうであつた。フエイにとつて此

の髪の色は、可なり酷い羞恥の種子であつた。若し他の子供から気の毒だと思はれる友情に価する子供があつたとすれば、このフエイの如きがほんとにさうした子供であつたらう。そしてポールの友情は正にフエイの受くべきものだつたのだ。ポールは、此の友達の名前を正しく呼べるやうになるまでは、「ペイ」と呼んで居た。フエイの家の前に立つて其の母に「ペイ」が遊びに出て来るかどうかを尋ねるのが常であつた。

フエイは随分苦勞した。彼の家の人達は、跣で歩き廻ることが何れ程に愉快だか知れない夏の暑い日盛りにでも、フエイに靴を穿かせなければ承知しなかつた。何れにせよフエイはポールと一緒に野や丘を走り歩いた。

二人は別れ別れに幸福といふものを知らなかつた。楽しみも悲しみも互いに分け合つた。若しこの赤い頭の友達との友誼を奪はれたならば、ポールの生活はその妙味の半ばを失つたであらう。

ところが数年後の或る日のこと、フエイは



友 フエイ 15歳

一人の近所の人に向つて、此頃時々氣を失ひさうになるやうな心持がしていけないと訴へたさうだが、その日から二日たった時、彼は精神に異状を來たして、ブラットルポロの瘋癲病院に入れられてしまった。そして其処で絶望的な数年間を過ごした後遂に死んだ。フエイは古いヴァーモントの花崗岩の丘陵に葬られ、斯くてポールの初めての友好は茲に終つた。

人生の凡ゆる魅惑の中に、友情程のものがあるだらうか、クローサスの富を積むとも、若し友を持たなかつたならば、人生の総ては如何に空虚であるだらうか。

ポールの生涯に内容を与へ、甘味を持たせてくれた多くの友人達の長い列の先頭には、この紅髪のヴァーモント少年がある。彼は彼等が多くの幸福を投げ与へてくれたことに対して、彼等に深く負ふことを痛感するのである。実に彼等は人生なるものを生き甲斐のあるものにしてくれた。若し凡ゆる宣伝の中で、彼が時代の側道を警鈴高く鳴らして先驅宣伝するの甲斐あるものがありとすれば、それは友誼の宣揚である。人類社会は此の友情の宣揚に於て最も欠けて居るではないか。

ロータリーの打立てられて居る基礎は実に此の友誼である。これ以上に堅固な基礎を何処にか求め得やう。将来の時代の人々が、ロータリーを考へ友誼の力を惟ふ時、彼等は御影石の岡に眠る我が紅髪の少年に、一片の憐情を寄せて呉れるであらう。

山の誘惑

若しも筆者が子を持つ幸福に恵まれたならば、彼をヴァーモントの山間に放つて、思ひのまゝに、或は山登りに肢脚を鍛錬させ、或は無限に変化する色とりどりの絶美の風景に崇高なる靈感を得させ、或は夏の涼気を山影の清く冷やかな湖水に求めさせたであらう。



ポール(後)とフェイ 21 歳

山はポールにとって四季を通ずる誘惑であった。他の子供等と連れ立って、山の絶頂目指して攀じ登りつつある時、彼の幸福は完全であった。

併し彼の山岳跋涉には何時でも道連れがあるといふ訳にはいかなかった。学校の休み又は用事のない時でも、彼等にはまた彼等として山登り以上に面白い時間の使い途があった。

従ってポールの山登りは大抵の場合独りで楽しむのであった。彼の登った有名なグリーン連山の幾つかの中にはキリングトンの峰もあった。而かもキリングトンの頂上には二度も行った。一體山登りは単に壮快なスポーツであ



フォーリングフォードの山の道

るばかりではない。仮りに其れが単なる遊戯だけのものであったならば、日中は必ず何等か有益な目的に費すべきものだと思つて居た祖父や祖母の賛成を得ることは出来なかつたであらう。ポールは決して経済的見地を嫌ふ人間ではなかつたから、自分の山岳旅行もどうか無駄にならないようにと心掛けた。

例へば夏には野生のストローベリー、ブラックベリー、ラズプベリー、ブルーベリーの類を採つた。而も駄賃を貰つて取りに来て居る子供等を除けば、彼は村中のどの子供よりも沢山に採つた。

彼の山登りは往々夜明け前に相当な道程を上り、山腹に達する頃には、早立ちの朝の列車がオツター・クリークの溪谷を、小さな長虫のやうに下つて行くのを眺めるのであつた。

こんな訳で祖母の台所の戸棚には、煮て冬の為に用意された野生のベリー類が常に蓄へられて居た。そればかりでなく、最初祖母は鱒取りには余り興味を持たなかつたが、ポールが矢のやうに流れる冷い溪流の石塊や岩の影から、狡猾な鱒を釣り出す技術に能く熟練して来た後には、これにも同意する

やうになった。祖母は鱒の良いのを選び分けるのに慣れてきて、其れを彼女のただ一人の手伝に命じて、インヂヤン、ミールで衣を掛けた後、豊富なバターで焼かせるのであった。それから其のフライを大皿に取り美しいナプキンを掛けて、ポールに近処の病人のある家などに配らせるのである。

定着した山家の永い日のみは、又た来るべき日を夢想するの好機を与へてくれた。

一度健脚の習慣がつくとそれは益々発達するもので、旅行の距離は次第に延長されて行く。ポールは屢々ラットランドまで往復18哩を歩いた。特にフェア・ヘーヴンまで25哩の長途を踏破したこともあった。

山間の冬の遊びは夏の其れに比較するとまた一層愉快でもあった。高地の湖や又は近くの川水の凍った表面を滑るスケイテング、山腹を何処でも構はず奔馳する無鉄砲な滑走、そうしたスポーツの快感は、全く言語に絶して居た。

此の古い家に休暇中寄集まって来る親類の小さい連中が多くて、笑ひふためく声が家中に響き渡り、全く喧噪の支配に任されるのであった。

さうした時は朝飯さへが待ち兼ねる。ヴァーモントの少年少女等にとつては、スケートの鈴音ほど妙へなる舞樂の音はない。更に雪に明けた真白な朝には、また格別の音楽が響いて来る。それは狐や兔を迫つて山の裾を荒れ廻つて居る獵犬、その嗶れた叫び声である。

いたずら好き

併し遊いたづらが全部ではなかつた。勿論学校があつて、其れに通ふことを是非為なければならなかつた。ポールは悪い成績の下に、我慢しながら通学した、併し彼はその悲哀を彼が独特のいたづらで慰めて居た。

何時の間にか村の人達は、何事か起りさへすれば其の背後にはポール・ハリスが居るに違ひないと、即座に結論する程に、彼の特徴を良く知つてしまつた。そして「フーリングフォードの一部の善男善女達は、彼のことを「あのポール・ハリスが」と「あの」に力を入れて話し合ふのが常となつた。

されど筆者はここで次のやうなことを附記し得ることを喜ぶ。それは、ポ

ールが高等学校を卒業する時、その校長さんのウイル・シヨウ氏から与へられた餞別の言葉の中に、此のいたづら好きの少年にとつて一つの尊い教訓があつたといふことである。その言葉は、君の将来には少からぬ期待が持てる、何故ならば君は屢々甚だ苦い試練を経験したに違ひないからである。といふ意味のものであつた。

ポールの最も大きな特徴は、そのいたづら好きと友達つき合ひとであつたのだ。

祖父と祖母とは如何にも規律正しい習慣を持つ人達であつた。「早寝、早起」、それが二人の日常標語であつた。そしてポールは毎晩〇時には就床して居るものと想像されて居た。

実際彼は九時には就床した、併し9時に床に就いて居るといふ事が、必ずしも一〇時にも床の中にあるといふことにはならなかつた。寧ろ彼は十時に



ポール 14歳

は床に居ないことの方が多かつた。

彼の部屋は祖父母の寢室と隣り合つて居た。そこで注意を聴覚に集中して居ると、微かな併し聞き慣れた鼾きが聞こへて来る。彼はそつと寢床を抜けて台所に這ひ出し、手近かの窓を開けて其処から外の遊び仲間に加はるべく飛び出すのであつた。

学校時代

ポールは伯父のジョージ・フォックス博士の許に寄食して、二年間をラットランド高等学校の予備学修に送つた。そして其の翌年の幕にルツドロウのブラック・リヴァー専門学校に入った時、彼は生れて始めて保護者の拘束から完全に逃れ出た自分を発見した。彼は斯うした自由を余りに愛し、凡ゆる乱暴遊びに其れを尊重した結果は、遂に除名処分にあつてしまつた。可なり強い恥辱感と悔恨の心とを懐いて、彼はフォーリングフォードに帰るの己むなきに至つた。その時彼の度を越へた元氣は、尚ほ一つの損害を招いて



バーモント大学入学
ポール18歳

な祖父母に怒されて、改めてサクストン・リヴァーの兵式教育のヴァーモン
ト専門学校に入学した。今度のポールこそは善良なる学生であった。

1885年の暮には彼はバーリントンに於けるヴァーモント大学の一年生
となった、其処では最初の一年と二年目の或る部分を通じて模範的に勉強し
た。ところが二年生の或る時に、彼の徒らな遊戯好きは再び彼に打勝って、
その結果彼は他の三人の仲間と共に情なくも放校の憂き目に遭った。その時、
彼と他の三人の内の二人とが全く冤罪であったといふやうな事実は、彼等の

居たのだつたが、当時の彼は其れを知らなかつた。それは外ではない。若し彼があつたならば、
ツク・リヴァー専門学校に今少し留つたならば、
山の向ふ側から来た温厚な一人の若者を級友
に持つことが出来たであらう。その若者とは、
前にも一寸述べたカルヴィン・クーリツヂで
ある。

時を経つと共に彼は犯した科を償ひ、寛大

関する所でなかった。実は其中の誰が悪かったのだといふことは、仲間の能く知って居た所であつたが、自尊心の強いソフォモア（大学二年生の称）として、一人も其れを公表するものがなかつたこと勿論である。

それから数年後、ガイ・ベイレイ博士が学長の時に、大学は是れ等四人の退校された人達に学位を許した。これは素より特別に寛大な恩恵であつて、仲間一同が深く感謝したことは言ふまでもないところである。

バーリントンの生活に就ては、楽しい思い出が沢山に残つて居る。大学は西にアチロンダック連峯を、東にグリーン山脈を控へて、美しいシャンプレーン湖を展望する高地に建つて居た。

コーステング、アイス・ヤツチング、トボガニング、スケーテング、スノウ・シウイング等の冬のスポーツは極度に盛であつた。

ヴァーモント大学退校後のポールは



バーモント・アカデミー
入学

家庭教師に就て修学し、1887年の春、プリンストン大学の入学試験を受けて、その年の暮に其処へ入った。

一日彼はハツス教授によつて学長マクコツシユ博士に紹介された。それはマクコツシユ博士が後一年で学長を引退する時であつた。この尊敬すべき教育家が自邸の大きな居室に座つて居る所へ、ハツス教授は一人の新しい教へ子を伴つて入つて行つたのであつた。ポールは学長の如何にも長者らしいそして学究家らしい風貌に深い印象を受けたのであつた。

ポールの紹介がすんだ時、マクコツシユ博士はその持前への声量の豊かな蘇蘭訛で訊いた、「ところで君は、此処へ来て面白い日を送らうと思つて居るかね？」と。「否エ先生、私は勉強に來たのです。」、ポールは斯う答へるだけの落付きを持つことが出來た。此の答に満足したと見へて、博士は長い年月を書物にのみ親んで來たために痛く曲つて瘦せた、丈の高い體を半ば垂直に正して好意の手を差し伸べて言った、「よろしい、それでよろしい」と。

1888年の8月にマクコツシユ博士の後任としてプリンストンの学長になつた人はフランシス・エル・パットン博士で、パットン博士は在職十四

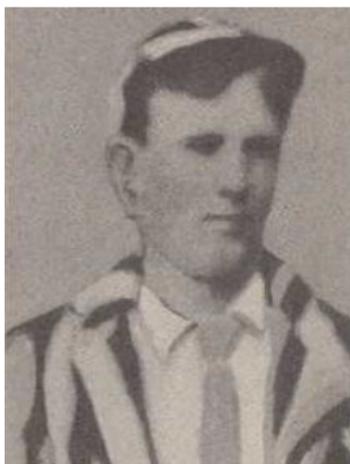
年の後、1902年にウッドロウ・ウイルソン氏にその椅子を譲った。

ポールは最近妻と共に、パームダで此の傑出したパットン博士並びにその夫人と、茶を供にするの光榮に浴した。今や八十四歳のパットン博士は、先祖以来の立派な自邸に籠って、静かに文学研究にその余生を樂しんで居る。

祖父の死

1888年3月の或る日、プリンストンのポールは祖父が危篤といふ電報を受け取った。彼は取るものも取り敢へず第一の汽車でこの恩人の許に急行したが、既に時は遅れて居た。

ハワード・ハリスは己に此世の人ではなかつた。



プリンストン大学

祖父は正に86年の尊敬すべき自己犠牲の生涯を終ったのであった。

ポールはあの厳肅な最期の時を追憶する毎に、今でも或る種の満足を感じる事柄がある。

それは、亡き祖父の枕頭には息子や娘やそして多くの孫達が集って居たにも拘らず、祖母が態々ポールの腕に使ったことである。彼女は60有余年の長い人生の旅路を通じて、曾て離れたことのない道連れであった良人に、彼女が最後の訣別を告げたあの墓の側で、彼女を支へたのもポールの腕であった。

葬式の後、二た岐れの家族達が全部集った席で、ポールは祖父の遺言書を読ませられた。

それは驚くべき程に簡潔で、而かも高雅と聡明そのものの表はれであった。老ひたる未亡人の余生を保障するだけのものを控除した後の遺産は、二人の子女とそして孫のポールとで等分に継承されるのであらうとは、村の多くの人々が予言して居たことであった。ところが此の予言は適中しなかつた。ポールをも含む多くの孫達の教育資金が夫々に割当てられた後、残除の財産は

二等分されて、一半はラットランドのジョージ・エイチ・フォックス博士夫人である娘のパメリアに与へられ、他の一半はセシルとポールとの父であるジョージの資産として信託された。此の遺言は、如何なる意味に於ても決してポールを失望させはしなかつた。

元来ポールは村の善良な人達が、余り彼の前途を有望視して居なかつたことを能く知つて居た。また彼の自信は村人達の臆断を知つて心の中に動揺を来して居た。併し彼は如何なる事に遭遇するとも飽くまで自分一個の力で、生活の戦ひを闘おうとの強い希望を内心に持つて居た。

祖父の死は、この光輝あるニューイングランドの家庭を、緩慢な併し免れ難い崩壊に導く最初の大きな出来事であつた。この進行しつつあつた悲劇の嚴肅性を、ポール程に痛感し得べき人は他に無い筈であつた。彼は神聖な思ひ出に彩られた神聖な旧地を訪問して、自分の感謝と愛着とを祖母に知つて貰おうと試みた。二人は物静かな夏の幾朝かを散歩した。その道は、嘗て祖父の歩みが踏み固めた果樹林や花園の細道であつた。斯うした夏の朝の散歩中に、祖母はすっかり黙り込んで了ふことがあつた。ポールはこういう時の

祖母が、60年間の夫婦愛の法悦と家庭の静寂さに、追想を凝らして居るのだといふことが能く分かった。

就職

1888年の暮に、プリンストン大学の科程を卒へたポールは、西ラットランドでヴァーモント大理石の採掘に従事して居たシエルドン大理石會に、一年間の仕事見習を目的として入社した。今までのプリンストンの学生は、一給仕という名誉ある高い地位を与へられ、一日一弗という莫大な給料を貰ふことになった。そして彼の毎日の仕事と言へば、朝5時に起きて朝食を經ませ、1哩の道を歩いて事務所に着くと、幾つかのストーヴの世話と拭き掃除とをして、課長や社員の出勤までに事務所内を整頓して置き、それから他の人々と共に自分の事務に就くのであった。

一體モース支配人は、ポールの性格を知って居りながら何故こんな不幸を役目に彼を就けることに同意したのだらうか。それは何時も不思議に思は

れることであつた。セシルは嘗て同じ会社で巡回売込人の役目を振當られて居た。それもよい。併しこの支配人はポールを個人的に能く識つて居る筈であつた。何故なら前にポールはキングスレー・ガードでモーアス氏の会社の手伝ひをしたこともあつたからである。そこで之はモーアス氏が暗中模索的な試みをやつて居るのだと解釈するのが賢明であつた。

最初彼はポールに向つて、給仕の仕事といふものは、命ぜられた事をするばかりでなく、命ぜられない事でも自分で探し求めてやらなければならぬと言ひ聞かせた。この適切な訓戒は充分な効果があつた。ポールはモーアス支配人が自分の性格や傾向を充分に知つて会社に雇ひ入れてくれたこと、そして主家シェルドンの人々に能く自分を推薦してくれたに違ひないことを知つた。また他の多くの真面目な青年達に熱心に希望されて居る職に自分を就けてくれたのだといふことを知つた。そこで彼はこの自分に与へられた信任に反くまいと、此の卑下な任務を最も良く果たさぬばならぬと決心した。それから半年の間に、此の地位の人間としては全く前例のない高給を受けるやうになり、更にその一年内に一段と高級な役柄に栄転した。

尚は今少しく此の条りの物語は続くが、幸ひに読者が筆者の目的を誤解されないことを希望する。

ポールがシエルドン大理石会社に勤務して居た当時、ダブリュー・ケイ・シエルドン氏が何かの機会で、州立大学の学長マシウ・ヘンリー・バカカム氏に会つたことがあつた。

その時バツカム学長は州立大学の卒業生であるシエルドン氏に、ポール・ハリスは曾て学校を放逐された男であることを知つて居るかどうかと尋ねた。シエルドン氏は答へて、「その事は能く知つて居ます。ところが面白いではありませんか、ポールは今日までに此の事務所に採用した人物の中でも、最も役に立つ有望な男の一人なのです」と。当時シエルドン会社に働いて居た人間は六百人からの多きにあつたのであるから、ポールが傭主の信任に酬ひやうとの決心を遂行したその効果は、聊か注目値するであらう。シエルドンといふ人は、市俄古にでも来れば必らず以前自分の所で働いて居た人を訪問し、そしてその安否を尋ねずには措かなかつた。マシウ・ヘンリー・バツカム氏は立派な学者で、州立大学の学長として応はしい人ではあつたが、若

い人達の貴重な素質を生かすといふ事に於ては、シエルドン氏やモーアス支配人の才能を備へて居なかつた。シエルドン氏やモーアス氏のやうな経営上の重要な事柄で頭の中が非常に忙しい実務家が、斯んな経験を有益と考へて試みるといふこと、是亦た大いに注目に値するものではあるまいか。ポールは其れを痛感した。夫れ故彼は燃ゆるやうな忠勤の念を禁ずることが出来なかつた。

ニューイングランドよ、やうば

誰にもその青年時代に非常に重大な一日がある。その一日は他の如何なる日よりも重大なものだ。ポールのその重大な日は、同時にまた最も悲しい日であつた。

祖母はその以前からラットランドの娘の、至極心持の好い家庭に暮らして居た。彼女は其処で愛の手の届く限りの世話を受けて居た。ところがポールにアイオワで法律の勉強をさせやうといふことは、前から祖父母の間に計劃

されて居たことであつたため、彼と祖母とはお別れに暫く懐しいニューイングランドの故郷に行つて居ることにした。

祖母とポールとは、其の重大な日の朝を一緒に過しつつあつた。彼女はポールの未来に繋ぐ希望やら野心やらを諸々と話した。彼女は驚く程能く堪へて居たが、とうとう涙に破れた。

「心配しなくてもいいんです。お祖母さん、私は直きに帰つてきますよ」。若者は斯う言つて慰めたが、彼女は涙のまま老いたる頭を振つた。彼女にとつて生涯の仕事の残る一つが達成されたのだつた。彼女は其の残された任務に最後の決定を与へなければならなかつたのだ。そして彼女は自分自身の感情には少しの拘泥も許さずにその決定を果した。

ポールは法律を学ぶべくアイオワに出掛なければならなかつた。

ホーレース・グリーンリーの如く

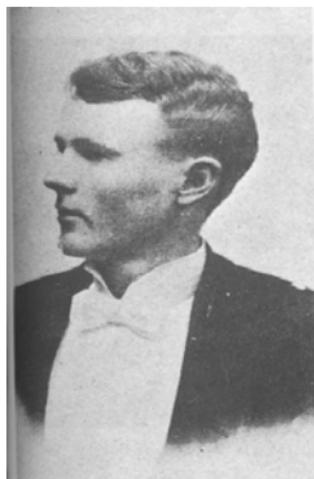
停車場に向つて歩いて居た。ポールの心は、18年前のあの到着の夜を追回

して居た。

西に走る列車の中で彼は将来を何事も不安ばかりであるやうに感じた。殊に自分自身が一番不安でならなかった。自分の将来は果して、ニウイングランドの二人のあれ程の心尽しと犠牲に酬ひ得るであらうか、それが彼の第一に考へるところであつた。

彼は市俄古で大学時代の友人ロバート・エム・ジョンソンと一週間を暮らした。ジョンソンは或る新聞の記者に成つて居て、ポールにヘイマーケットの暴動とクロニンの惨殺事件のあつた所を案内したり、ジョージ・ヴィ・ハッキンズがあゝの有名な賭博場を公然と開帳して居た場所などを見せた。是等の光景はポールの頭脳に深い印象を与へた。嘗て彼はプリンストン大学に居た頃に、紐青やフィラデルフィアは相当によく見て居たが、西部の都市を見るに及んで、彼には其れが妖幻な魔都のやうに思ほれた。彼の眼に映じた市俄古は、社会的乱闘の修羅場であつた。彼を引きつけた種々の光景は、また彼を突き放した。

アイオワの第一歩は、デス・モインズのセント・ジョン・ステイヴンソン



1981年アイオワ
州立大学卒業

及ホイセナンド法律事務所で、法律の研究に従った。尤も夏の間はオカボジヤ湖畔で魚釣りなどの戸外生活を送り、退屈な時間以外には余り法律書を繙かなかつた。

一年経つた時、彼はアイオワ市にあ

る州立大学の法律科に入り、1891年の6月其れを卒業した。アイオワ大
学ではその学生の状態が、今までに彼が見て来た所とは全く異なつて居た。
先づその学生はヴァーモント大学やプリンストン大学の学生より皆な年長者
であつて、大部分はアイオワの農村から来て居るのであつた。そして彼等の
中には自分達の学業の完成に必要な学費を得るために、学校教師をして居る
ものが甚だ多くあつた。既に遊戯の時代を半ば以上通り過ぎた彼等だけに、
多く熱心な学生ばかりで、その雰囲気は自然有益なものになつて居た。教師
の与へる宿題を研究し合つたり、法律上の理論や實際問題に就て討論したり
して、彼等は夜になるまで教室に残つて居ることなどが往々にあつた。

このアイオワ大学在学中にポールは、ウイル・ムリンといふ頭脳の優れて良い青年と交友を結んだ。ウイルはポールより二つか三つ年長で、曾て彼の兄の経営するセダー・ラピッツの書店に勤めて居た時に得たのだといふ文学上の知識を豊富に持つて居た。そして何時か彼はポールにとつて文学上の師匠役になった。ウイルは多少所謂剽軽者といった風の人物であったが、それがためにポールに与へた善い影響が消されるといふことはなかつた。

回顧

ポーは今迄の学校生活で経験し來つた所を回顧する。それ等の経験から何物かを得たとせば、果して其れは何であつたらうか、祖父母の犠牲と希望とに酬ゆべき何物かを得たであらうか、学校生活に日を暮らしたことは、何等かの価値あることだつたらうか。斯うしたことを今ポールは自問しやうとする。

大学へ這入つてノラクラして居ても、全然這入らないより善いことだと言

つたのは、マクコツシユ博士であつたかパットン博士であつたか誰であつてもこの言葉は当つて居るやうだ。大学は実に夥しい貴重を機会に満ちて居る所だ、どんな人間でも其の幾分を拾へないといふことがあるだらうか。

ポールが学校生活の経験から拾ひ上げた最良のものは、他の学生達との交際から得たものであつた。学問方面に就ては、良書に対する愛好心を得た位のもので、他には大きな収獲だと公言するだけの勇氣に値するものは無いやうだ。

要するに彼にとつて学校の誘惑は、学校が人間社会の傾向を学ぶ機会を与へてくれるといふ所にあつたことは確かである。彼は何時も一介の修験者であつた。如何なる所に多くの人々は群れ集つたか。その誘因は何であつて、各人の人生を動かした根本の諸動因は何であつたか。何故に人々は斯くの如くに行動したか。何故に或る人は善良で或る人は邪悪であつたか。何故に或る人は幾多の犠牲を払つたか。その犠牲は酬ひられたらうか。酬ひられたとしたら如何にして酬ひられたか。或る人々は何故に自分の肉體的、精神的、乃至道德的素質を無益に消耗したか。そして其れによつて彼等は何を得たか。

祖父の教訓は聡明であつたらうか、それとも彼は時代後れの、欺かれて居た旧弊な老爺に過ぎなかつたらうか。一體人生とはどんなものであつたか。59年の雲霧に、学生時代の幾多の出来事や思想は朦朧として容易に見極はめ難くなつた。この間に多くの知人や学友は、頻りにポールを瞠若たらしめた。その或者は如何に速かに飛び越へて行ったことか。彼等は如何なる探険によつて、如何なる程度の透徹さに於て、青春の鉱道を最後の鉱脈まで掘入つたのであらうか。

アイオワ生活中、ポールは祖母からの輝かしい便りを度々受取つたが、然るに或る悲しい一日、彼女が静かに此の世を去つたといふ電報に接したのであつた。山影に楓が赤々と紅葉して居た秋の日の午後、フォーリングフォードの静肅な野辺の送は、彼女を良人の側近くに安息させた。彼女は「∞」年の全生涯をこの平和な溪谷に過ごして、極めて稀な場合の外は遂に己が土地を動くことがなかつた。

ポールは未だ人の世を自ら満足するまでに見始めて居なかつたので、来るべき5年間は、人の生活を凡ゆる角度から、そして出来るだけ多くの都市に

就て研究しやうと決心した。

彼は己が限界を拡大しやうとの希望に燃へた。彼の見たいと願つた所は、母方の祖父が開発した黄金の西部であつた、平原の生活であつた。退屈なフロリダであつた、そして彼の夢想の地である海の彼方の粟粒のやうな島であつた。斯くて5年の期間が切れた時、市俄古に定着して法律の実務に就かうといふこと、これ亦彼の心に決した予定の一つであつた。

西のかた

彼の友人ロバート・ジョンソンは、当時桑港で新聞の仕事に従つて居た。

ポールは西部の途すがらエロウストーン国立公園を訪ひ、北部アイダホの山中で狩猟や鱒漁に一週間を過ごした。その時幸運にも一匹の黒熊を仕止めたことがあつた。斯うした生活に、既に残少なの財を幾分でも費すといふことに就ては、素より理詰を弁解は成立たないであらう。

併し彼にしてみれば、是等は皆な目的の遂行に他ならないのであつた。彼

は人生の修験者であるのだ。斯くて1891年7月の下旬に彼は桑港に着いた。その時貯へは全く費ひ果して、遂に空拳の彼となつて居た。

第二編

新聞記者の経験

若し市俄古を除くならば、桑港は、ポールの感興を喚んだ点に於て、西都の全都市中第一であった。

ポールは大学時代の友人ロバート・ジョンソンの紹介によつて、初めて新聞の仕事に就いたことを感謝しなければならぬ。ロバートは他人に援助を与へるだけの力を普通以上に備へて居り且つ甚だ世話好きな男であつた。ポールはこのロバートの勢力と手引とで「クロニクル」新聞の編輯局に入社したのであつた。その頃のロバーは「エキザミナー」新聞とホテル記事を約定して居た。桑港はその頃新聞の事業にとつて甚だ不況であつた。而かも其処には東部から此の海岸に流れて来た手腕のある記者が沢山居て、多く冒険的精神で動いて居た。「クロニクル」の当時の経営者はエム・エイチ・デ・ヤング氏で、固定給を受けて居ない多数の記者が其処に席を置いて居た。是等の記

者は、その提供した記事が掲載に値するニュースヴァリウを持つと認められた時に、その記事の量に応じて報酬を貰ふのであつて、また約定仕事に対しては一回に付き3弗支払はれるのであつた。但し約定仕事の割当ては古参の順に依るのであつて、全部の記者に割当てられるといふやうな機会は殆どないと言つてよい位であつた。従て新入社 of 記者連中は、自分で独立的に「タネ」を漁り求めるだけの手腕を持たない限り、容易に立つて行けないのであつた。ところがその自分一個の手腕で「タネ」を拾ひ出すといふことは、経験のある記者でも慣れない土地では容易ではない。当時初めての土地に行つても、其の第一日に適当な一日分若くは其れ以上の材料が取れるといふ、特に優れた手腕を備へて居た記者もないではなかつた。ロバート・ジョンソンの如きはさうした敏腕な記者の一人であつた。彼が未知の諸都市、就中紐育の如きに於て、その土地の隅々まで知り抜いて居る多くの一流記者の間に伍しつゝ、立派に此の芸当をやつてのけたことを筆者は能く知つて居る。

ポールは幸いに先輩の或る人達より良い成績を挙げることが出来たが、時節が悪くて到底或る程度以上に向上の跡が認められなかつた。その内に或る

夜のこと、同僚の記者連中がパレイス・ホテルに集つて、談偶偶、将来の見込といふような事に及ん時、その中の一人で、ケンタツキーのルイスヴィールから来たハリー・シー・プリアムと云ふ、矢張り「クロニクル」の編輯局に末席を汚して居た男が、自分はカーフォルニアを見る為めにこの西部へやつて来たのだとポールに言つた。このプリアムは後年の「国民野球団」の団長ハリー・プリアムと同一人である。

運命の戦士

ハリーは愉快な男であつた。そして前から好い相棒を求めて居たポールの目には、彼の言葉が甘い音楽のやうに響いた。そこでポールは二人で一緒に国中を働いて歩かうではないかと提議した。この提議は即座に容れられて、それから三日目には、ヴェイカ・ヴァレイの果樹園で二人とも肉体労働に従事して居た。やがて彼等は又も運を賭して、いよいよヨセミテ・ヴァレイを含むカリフォルニアの山間三百哩突破の目的で、其の仕事を捨てた。

ポールはストックトンでマリアに雇ったが、第一日の行軍で恢復し、再び平生の元気に還った。

その時のキャンピングの調度は、毛布、食料、珈琲瓶、フライ鍋及び良書数冊であった。

カラヴェラスの大樹から、愈々道のない山越へに移った。二人はヨセミテ・ヴァレイへの途上へツチ・ヘッチーとキングス・リヴァー・キャニオンを見やうとしたのであった。

恐らくは其れは免れ難き成行であつたらう、素人の山賤共は、トールラムン、マーセツドの諸溪谷とスタニスラウの流れの分岐点を越えるあたりで途に迷つてしまつた。そして数日間迷ひ続けたが、食糧が絶へてしまつた時には、幸にも或る人家の在る所に辿り着いた。

それがヨセミテであつたのだ。併し其の代りには豫め目論んで居た他の有名な溪谷を踏破することが出来なかつた。

彼等の次の仕事は、フレスノに於ける乾葡萄の積出業であつた。それからロスアンゼルスに出た。其処で新聞に職を求めて得られなかつたポールは、

ロスアンゼルス実業学校の教師になった。偶然にも此の学校は、その後1908年にロスアンゼルス・ロータリー・クラブが組織された時に、率先して代表者を出した公益機関の一つだったのである。

デンヴァー

カリフォルニア州に居ること正に9ヶ月で、ポールは東へ遠くデンヴァーまで還って来た。

彼は其処で一株式会社社に雇はれ、オールド・フイフティーンズ・ストリートの劇場：国民劇場とも言ふ：で舞台俳優を勤める程の多芸振を發揮した。此の冒険的示威は、彼にとって他の何れの場合よりも好評を博した。それは期待よりも余りに大き過ぎた観があった。彼の旧友の中には、彼が邪道に堕ちたと一概に思つて手紙を



ポールの出演した劇場

寄越した者もあつた。

それ許りではない、彼がデンヴァアの街を歩いて居ると、新聞売子共が彼の偶々演じた役名を呼びかけるのであつた。併しポールとしても決して長く舞台に立つことなど望みはしなかつた。彼にとつて多事な此の5年間を支へて行く職業として、その余す日数の幾分を割当つべきものは、他にいくらでもあることを知つて居た。

「パイクの山頂か左なくば破裂か」といふ形容を聞いて居つたので、ポールは其処にどんな意味があるのかを實際に見たくなつた。彼はマニトウまで汽車に乗り、中途の宿屋を尋ねて一泊し、起きて登り続け、まだ朝の間に頂上に達して、帰路一目散全道を駆け下つた時、その夜の十一時の列車は彼をデンヴァアに運んだ。彼内心思へらく、グリーン・マウンテンで鍛へシラ・ネヴァアダで試みた健脚は、ロッキー何のそのと。

間もなく彼は・ロツキー・マウンテン新聞の編輯部に椅子を得て暫く其処に止まり、次に幸運にも、コロラドのプラツトヴィールに近い一牧場にカウボーイ生活を味つた。

カウボーイ生活の数ヶ月間に、彼は迷出た牧場の馬や牛を追つて、単騎数日に亘つて山々を乗り歩くことが屢々あつた。転じてデンヴァーに還るに及んで「ゼ・リパブリカン」紙に雇はれ、其処で東へ流れ戻りつつあつた桑港時代の旧友達に出会つた。

フロリダ

フロリダも亦たこの若い旅人に夢想されたローマンズの国であつた。ポールの今度の飛躍はジャクソンヴィールへであつた。彼は徒歩で其処へ辿り着いた。この南部都市で彼が第一に捕へた職は、当時ジャクソンヴィール第一と称されて居た観光旅館「セント・ジェームス」の夜勤番頭であつた。

併し彼は旅館の仕事の無趣味であることを発見して其処を間もなく罷め、大理石及花崗岩販売商ジョージ・ダブリウ・クラークの巡回売込人に転じた。

この道に於ては前にシエルドン大理石会社に働いた時分に得た多少の知識があつた。ところが此のジョージ・クラークは我が放浪者の生涯に、著しい影

響を与ふべき運命を持つた人であつた。クラークはポールより少しく年長であるに過ぎなかつた。雇主と雇人とは忽ち親友になつた。そして数年後のジョージは、ヂャクソンヴィール・ロータリー・クラブを創設し其の第一次会長になつたのである。

ポールはジョージの商用で旅行したので、フロリダ州に就て大に学問をした。1893年3月1日にジョージの事務所を辞した彼は、直ちにグローヴァー・クリーヴランドの合衆国大統領就任の儀式を見るために華聖頓に向け出發した。華府在留中の彼は「スター」紙に一時的の職を奉じて居た。かくて大統領就任式が終わつた時、彼はケンタツキーのルイスヴィールに移つた。それは旧友のハリイ・プリアムの手によつて、「クーリア」紙か「ルイスヴィール・コンマーシアル」紙かに永続的地位を得ることが出来やしまいかと思つたからであつた。ハリイは当時「コンマーシアル」紙の電報編輯係をやつて居た。

ところがハリイの折角の骨折も不成功に終りさうだつたので、ポールは再び大理石花崗岩商のジエームス・エイ・クラーク商会といふのに巡回売込人

の職を求めて採用された。

姓は同じクラークであつたが、此の商会の主人とジャクソンヴィールのジョージ・ダブリウ・クラークとは親戚関係も事業上の関係もなかつた。

この新しい地位はポールに、南部の古い諸州：ケンタツキー、テンネツシ、北部ジョルジア、ヴァージニア：に就て学ぶ絶好の機会を与へた。ヴァージニアのノーフォークに赴いた時彼は又も辞職し、太平洋を彼方に渡る方法を求めんとすの意図を懐いてフィラデルフィアに舟行した。ラグビーのトム・ブラウンが初めて世の称賛を博した頃から、ドイツケンスやサツカレーやスコットなどの文筆の人々が彼を虜にして居た時を通じて、ポールは是非一度島国英吉利を見たいとの憧憬を持ち続けて居たのであつた。彼の憧憬は氣まぐれなものではなかつた。激しい堅い決心に裏付けられて居た、之が為めには進んでどんな辛苦でも忍び、どんな対価でも喜んで払ふだけの意志であつた。彼はフィラデルフィアに居る間に、市俄古に於ける世界博覧会に関する沢山の新聞記事を読んで、其の結果彼の此の都に対する感興に甚しく深められたのであつた。そして英吉利から帰国した上でこの博覧会も訪問しやうと

考へた。

難航

或る朝彼はフィラデルフィアの新聞の求人欄に、バルテイモアの或る商会で英国渡航の人足を募集して居る広告を見た。それはジョンソン・ラインの「バルテイモア」といふ汽船に乗込むものであった。

翌日の未明に浪を踏んで漂ひ出た汽船「バルテイモア」号の甲板には、人生の実際に就て何事かを学ぼうとの念願に燃ゆる一人の若い男が、俄か仕立の下級船夫として乗組んで居た。

この初めての航海の辛酸は筆紙に尽し難いものであった。その悪戦苦闘の様は語つて信じられないものであつた。海上は荒れて居た上に、船は大西洋航路中最悪の航路に従事する最悪の船として有名なものであつた。此の経験によつてポールは、目のあたり、彼自身に大きな感動を与へた人間の相互愛なるものが、如何に必要であるかといふことと、引いてはロータリーの人生

観を学び取ったのであつた。この體驗が無かつたならば、人間といふものがどれ程ドン底に沈淪し得るものだといふことを、信ずるやうになれなかつたであらう。かくて約十四日間を狂暴的に突進し続けた後、「バルティモア」は漸くマーセイに入り、間もなく水夫達はリヴァープールに陸揚げされた。

上陸した日は誰も全く疲れ果てて居た、一日只眠るより外に何の役にも立たなかつた。

併し壮年の回復力は驚くべきもので、ポールが新たに出来た一人の友達と共に、初めて見る異国の大都會を奇異の眼を瞠って歩いて居たのは、それから間もなくであつた。彼等は市内から郊外にかけて凡ゆる方向に歩き廻つた。若しその時に何か神秘の力がポールに向つて：お前は今後数年の内に、此処リヴァープールで一つのクラブの組織を指導するだらう、そして其のクラブは此の都市生活に重要な勢力を振ふであらうと、こんな風に告げたなら彼はさぞ驚いたことであらう。兎も角滞在は余りに短かつた。帰航に就く時の習慣通り彼等は匆々にしてマストの下で点呼されねばならなかつた。

この時ポールは、倫敦を見ることの出来なかつたことに痛く失望したが、

同時に若し再び大洋を渡るの機会に遭遇したなら、仮令其れに如何なる惨苦が伴ふとも、必ずこの大英国の首都を訪問せざればやまいと決心した。

バルテイモアへの帰航は、同じラインに属した「バークモア」といふ船に依つた。此の船は「バルテイモア」程に酷い船ではなかつたが、決して良い船だと言へる種類のものではなかつた。例へば人足達に対しては布団も毛布もまた食器も備へてなかつた。定食は、英国の海員の間「スコース」として知られて居る至つて粗末なものが日に三度与へられるのだが、其れは大部分芋と水の混合物で、稀に微細な肉片が発見される程度のものであつた。この「スコース」と汐風に湿つたビスケットとが主要食料であつた。また往きの船でも還りでも酷い毒虫に苦しめられた。そして海の荒れて居る時には、夥しい海水が甲板を洗つて、水夫達を朝から晩まで翻弄するのであつた。斯くて栄養の不足と毒虫とそして冷い汐水に絶へず浸されて居るといふことは、彼等をして生の執着をすら捨てさせるものであつた。

仮令人足ののる乗船でも、他の航路には相当に良い船があるといふことを、ポールは古参の水夫達から聞いた。殊に彼等の間に評判が良かったのは、ア

トランテイック・トランスポートイション・コムパニーの亜米利加航路であった。彼等の一人は嘗てそのラインの「ミシガン」号で渡航したことがあつたが、その設備は非常に良かったと称揚して居た。

バルテイモアに帰着した時、早速ポールはまた出帆する船があるならばまた行き度いと一人の船員に頼んでみたが、恐しく情無く弾ねつけられてしまった：最早人夫は用無しだったのである。ところがポールを驚かしたことに、その日の後刻、同じ船員が彼を愛想よく大声で呼び掛けるではないか。

「君はハリスつて言ふのかね」。ポールが近付くのを待つてその船員は斯う尋ねた。ポールが肯定の意味を答えると、「よし、君、君は是から仕事の欲しい時には、何時でも俺達と一所に働けるぜ。船員頭のビリー・グラハムが言つて居たよ、今までに航海に連れて行つた奴等も随分あつたが、君程の間人は初めてだつて」と彼は言つた。

ポールも是迄に色々な推薦を受けたことがあつたが、此の推薦程に嬉しく思つたものはなかつた。斯うした種類の仕事にも自分は善処することが出来たのだと思ふと、彼は心に快哉を叫ばずには居られなかつた。彼は仮令如何

なる場合に於ても、油断なくと努めた。

他人の爲めに役立つやうにと努めた。そして其の努力は正に認められたのであつた。

時拾もジョンソン航路の今一つの汽船が出帆しようとして居たが、ポールは必ずしも此の特別の経験を尚ほ一度繰り返して見ようと求めて居たのでなかつたから、寧ろ他の方の好機を待つことにした。

その時は恰度乾草季節であつたから、ポールは或る程度まで良い条件の下に渡航することの出来る機会を待つ間、地方に行つて此の乾草の仕事に働いて居ることに決心した。彼は未だ一度もこの草原の労働をやつてみた事はなかつたが、ヴァーモント時代に此の事に就いて聞くだけは種々なことを聞いて居た。そして常に経験は彼の飽くことのない欲求の目標であつたから、彼は徒歩旅行でエリコツト市に到り、その郡部の原野に仕事を得た。

その仕事は仲々骨の折れる労働で、さうした筋肉の激使には未だ習慣付けられて居なかつた彼ではあつたけれども、能く最善の努力で働き続けた。そしてその傍ら、新聞を見る機会さへあれば、出帆汽船の消息を仔細に点検す

ることを忘れなかつた。間もなく「ミシガン」号の出帆豫告が彼を雀躍させた。倉皇としてバルテイモアに戻り、例の船員に頼んだ。

人生の修験者ポールを乗せた汽船が、チエサピークを涉つて居たのは、それから間もない頃であつた。そして其の汽船の目的地は、倫敦から 30 哩、テームス河畔のティルブリーの船着場であつた。

おお幸福なる日よ！

此の度のポールは拔擢されて船夫小頭となり、荒くれ男の一団を委かされた。日々の生活条件は極めて良く、愉快な航海は続いて、豫定の数日後には倫敦の街頭に、ポールは航海中に出来た一人の友達と、憧れの風物を眺め廻つて居るのであつた。朝から晩まで、此の二人の若い米国人が歩き廻つた距離は、実に驚くべきものであつた。上下両院、ウエストミンスター寺院、大英博物館、倫敦塔、セントポールス、ハイドパーク、ケンシントン公園、バツキングダム宮殿、トラファルガー、ストランドなどは勿論彼等の見遁がす所ではなく、其他にも到处に数々の名蹟を訪れたのであつた。

1911年にポールは倫敦ロータリー・クラブを組織した。そして現在で

は倫敦市内に四〇個のロータリー・クラブがあり、今後尚ほ増加するであらうと豫期されて居るが、最初に出来たクラブは、何処までも倫敦ロータリー・クラブなる名を冠せられるの特権を持つて居る。其の事務所は「ホテル・セシル」内にあつて其処でクラブ員の諸会合は行はれ、また其れは歐羅巴を訪問す夥しい米国のロータリアン達の休息所になつて居る。時は1893年、此の運動の創設者が斯うして初めて倫敦を訪問した時、自分自身が泊まることの出来た最上の旅館は、貧民区ホアイトチャペルのコンマーシアル・ロードにあつたエイ・レスリーという安宿であつた。ホアイトチャペルは、他国から来た此の幼稚な社会学者の特別の感興を瞬つたのであつた。

今一つポールを驚喜させることが待つて居た。それは「ミシガン」号が石炭を摂り且つフライデルファイア行の特産陶器を積取る為めに、サウス・ウエールスのスワンシーを経由して帰途に就くことになつて居たことだ。ところが船がスワンシーに入った時、火夫が罷業を起してしまつた。斯うした事が亦却つて幸となつて、旅行者達はスワンシー並びにこの近隣地方の興味ある色々の場所を、歴訪することが出来たのであつた。

博覧会見物から又の旅へ

大いに愉快だった帰りの航海が終つてフライラデルフィアに渚いたポールは、直ちに世界博覧会を見物すべく市俄古行の汽車に乗つた。その時囊中は正に汽車賃を払つて一文無しであつた。市俄古に着いた彼は、大学時代の友達が博覧会の切符売場に居ることを知つて居たのでその男を尋ねてお客となることが出来た。

一週間を費して彼は其の重なる個所を見物し終つたが、その間に彼は注意に値する一つの経験を得た。それはヴァーモン館を見て居る時のことだつた。彼が館に這入ると間もなく眼に付いたのは二人の男女であつた。先方では彼に気が付かなかつたと見えて、出品物の方を頻りに眺めて居たが、彼にとつて此の一瞥が甚だ狼狽すべき事実だつたのだ。といふのは其の二人が、ラットランドに住む彼の従兄弟のエド・フォックスとマティー・フォックスとだつたからである。

ポールは忽ち踵を回へしてヴァーモン館を出た。一文無しの若い男は、

親戚の面前に自分を晒し得るやうな立場に居なかつたのであつた。

豫定して居た博覧会の訪問を遂げた彼は、次に踏破すべき世界を求めた。米国の全都市を通じて唯一つまだ彼の見て居なかつた場所があつた。そして其れが特別に彼を誘惑した。

其れは米国の他の諸都市と非常に多くの点に於いて異なる所のあるニューオレアンズに外ならなかつた。問題は如何にして其処へ行くかであつた。

成功の秘訣

茲で一寸断つて置くべきであらうことは、何れの場合にも彼は一度も無賃乗車などをしたことがないといふ点である。必要な時には汽車賃も払い船賃も払つた。左もなければ労務を提供するのであつた。そして間断のない遍歴の行程を進めたのだ。彼が如何なる未知の都市に行つても、到着忽々何時でも屹つと独立の生計に立脚し得る技量に、人は往々不審の言葉を発するのであつた。諸国を放浪して歩く新聞記者のやうな相当の経験を持つ人々でさへ、

ポールの此の点には奇異の感を懐くのであった。例へばハリー・プリアムの如きはポールのことを「不思議な男」と呼び慣れて居た程である。自分の住み慣れた土地に於てすら時に数個月も失職して居るといふやうな人にとつては、ポールの経験は寧ろ奇蹟に見えたであらう。

ポールが為す所必ず能ふ所であつたといふ事實は、ポール個人にとつての貢献であつたと同時に、彼が住む邦土の驚くべき資源に対しても、同じやうに一つの貢献があつた。

ポールが何故行くとして可ならざる所なかりしと言ふ理由は、極めて簡単であつた。

第一に彼の要領とした所は、常に服装を整へて身辺に能く注意の行届いて居ることを示すにあつた。また第二点として、彼は仕事を選ぶのに其の一定の階級に束縛される所がなかつた。精神労働であらうと肉體労働であらうと、其の仕事の種類如何に拘らず進んで之れに従事して生計を立てるのであつた。最後に彼は与へられた職務に全力を尽すことを常に忘れなかつた。自分自身の内に備へる最善のものを提供するといふことが、彼の目標であつて、若し

好果を挙げることに失敗したとすれば、其れは肉體上か精神上かの制限に由るのであつて、決して彼の不熱心に因るのではなかつた。目的に対する彼の著しい熱心さは往々にして、彼の雇傭者の利益になるやうに働くことの出来なかつた仕事から、彼にとつて一層適合して居た勤めに転じて行くといふ結果を作つたのであつた。

偕てニューオレアンズに行く方法は、別に難いものではなかつた。彼は一人の学友から15弗を借り、その内の10弗をチケット・ブローカーに払つてルイジアナのクロウレーからニューオレアンズ經由市俄古行の通し切符を求めた。この賃金が安かつたのは、有効期間24時間の切符だつたからである。

朝早くニューオレアンズに着いた彼は、切符の残部を一弗でブローカーに売つた。

ニューオレアンズに於ける此の旅行家は、一軒の卑しからざる家庭に、一週四弗の約束で良い賄付の一室を借りることが出来た。そして間もなく新聞の仕事を探へた。併し時節は特別に悪かつた。殊に新聞の仕事にとつては閑

散そのもので、其処には埋草書きの特権以外には何も役立つものがなかつた。併し幸にしてポールは、持合せの準備金が無くなる前に、彼の物語に新しい一章を追加すべき機会を発見した。其れが如何に興味あるそして如何に特異の一章を形作るものであつたかは、その時のポールには素より想像し得なかつたことだ。

オレンジ挽ぎの仕事

或る朝、彼は一新聞の求人欄に次のやうな広告を発見した、「求人：オレンジの採取及包装人十二名募集、場所はプラクマイン区の一オレンジ林」。

翌日ポールを混へた一組の労働者はミシシッピ河を涉り、軽便鉄道で「水の父」の河口に近い三角洲にある一小市バラスに着き、其処から一哩半許りを不完全な乗物や徒歩で這入つて、エス・ピザツチといふ人のオレンジ林と倉庫の在る所に着いた。ピザツチ氏はニューオレアンズとニカラガのブルーフィールドとの間に汽船を通はして居る有名なピザツチ・オテリ汽船会社の

重役であつた。

その倉庫は、高い基礎の上に建てられ、その床は提防の上と同じ高さに平
行して居て、オレンジを積出す場合に、倉庫から直ちに土提を越して河岸の
波止場にトラックで運び出し、其処からニューオレアンス行の川蒸汽船に積
み込めるやうになつて居た。ルイジアナのオレンジは、霜害が早いところか
ら、未だ青い内に取つて包装して了ふのだ。

オレンジ人夫達は直ちに仕事に掛つた。彼等の合宿所は倉庫の中に設けら
れてあつたが、食事はピザツチ家の料理人の手で、ピザツチ氏の寧ろ実用的
な住宅の中に用意されるのであつた。バナナの輸入で富を作り上げた此の年
寄つた伊太利人は、殆ど何時でも家に居た。

オレンジを腕いで紙に包み、箱詰にして船積するといふ仕事は、数日の間
着々と続けられた。そして若し其処に或る特別の事情が突発することがなか
つたならば、全収穫の終るまで無事に運んだことであらう。

忽然恐怖

或る日曜日の朝、ポールを含む5、6名のオレンヂ取りは、ミシシッピー河に舟を浮べて、支流の浅瀬に蠣狩に出掛けた。ところが午後になつて帰らうとする頃から強い風が出て来て、川を漕いで戻ることが既に非常に困難であつた、幸に倉庫へ帰へることは出来たが、暴風は益々強く吹き続いて、立ち前の特に高い此の建物は、吹き倒されやしないかといふ危険さへ感ぜられた。そこで皆んなピザツチ家の方へ遁げ込んで邸内に入れて貰つた。

嵐は夜になつても少しも静まる模様がなかつたので、このオレンヂ人夫達は邸内の大きな台所に何時迄も置いて貰つて居た。入口の戸が頻りに開閉した。突然一家族の人間がビツショ漏れになつて飛び込んで来た。外国人だつたので彼等の混乱し昂奮した言葉は、居並んで居たポール達の耳には其の意味が容易に分からなかつた、叫び立てる男の声と泣きわめく女や子供の声とが家中に響き渡つた。結局この一家族は、自分達の家を逃げ出して、この頑丈なピザツチ邸へ避難して来たのだということが分かつた。

その内に扉の間隙を破つて、水が家中に突入して来たのには、流石のオレンジ人夫達も当惑し出した。家は既に水に取囲まれて居るらしかった。突然誰かが大きな叫び声を揚げた、それは一般の喧騒を飛び越へて響いた。男達は子供等を抱へて入口から暗の戸外へ走り出た。女達もそれに続いた。此の場合あの立ち前の高い倉庫が第一の避難場所だということを人々は直感したのでつた。最早風よりも水が恐ろしかつた。

ポール外4、5名の人夫達も、子供等を抱いて暗の中に飛び出した。ポールの抱いて居た子供は、8つか9つ位の女の子だった。最初水は膝の辺まで来て居たが、倉庫に近い低地まで達した時、其れが急激に深さを増した。子供を水に浸さないようにするには、水の深くなるに連れて次第々々に高く抱へ上げて行かなければならなかつた、最早ポールの腋の下まで水に浸りさうになった頃、彼の爪先は漸く倉庫に上る板敷の勾配に触れることが出来た。見渡すと一つの提げランプの光を頼りに、50人にも余る人々が呵鼻叫喚する女や子供を交へて漂ふて居た。その中でオレンジ人夫達は、若い頑健な男許りであつたから容易に倒れるやうなことはなかつた。而かも彼等は、ミシ

シツピー河にどんな事が起つたのか、又どんな事が起り得るのかといふことを知らなかつた。

彼等の一人でジャクソンヴィールから来たグランカーといふ男は、一人の戦き恐れて居る婦人が、彼の膝に縋つて咽びながら祈つて居るのを見下して、何か馬鹿らしいといった粗野な感じを持つたと見えて笑ひ出した。側に居たニューオレアンスから来て居る箱造りでミシシツピー河のことを知つて居た男は、グランガーの方を振り向いて言ふのだつた。

「笑ひ事ぢあないぞ、お前も神様に会ふ用意をするがいい」。

併し水を持つて来た風は、川に吹き付けて居たのでなくて反対の方向に吹いて居るのであつた。誰かの發議で、ポールは他の人々と共に鍬や鶴嘴や鉄杖などを持つて、土堤を切り崩すべく走つた。水を川に落さうといふのであつた。

土堤の上は狂暴な風が吹き捲くつて居て、其処に立つて居ることは非常に困難であつた。此れ程の暴風の中に、倉庫が能く持ち堪へて居たことは、一つの奇蹟としか思はれなかつた。斯うした間に他の男達は筏の急造に掛つた。

併し遂に夜は明け嵐は去つて、人々は此上なき救ひに甦つた。見ると水をかぶつて居ない土地は堤防の上だけだ。そして其処は歩行して居る物、爬行して居る物、匍匐して居る物で埋まつて居た：馬、牛、豚、鶏、小鳥、それから蠱きのた打ち廻つて居る半死の毒蛇モカシンの無限連続。

流失を免れた家は、僅かにピザツチ氏の邸宅と人々の避難の場所オレンジ倉庫とだけであつた。何処かの建築者が、正直な良い仕事をして置いたのは幸ひであつた。

周囲の泥海には、家の破れや取り立てのオレンジなどが一面に撒き散らされて居たが、眼の及ぶ限りの光景の中で最も奇異に映じたものは、昨日まで乾燥した陸であつた所に、ちやんと碇泊して居る三本マストのスクーターであつた。

諸新聞が稀代の津浪として伝へた所に依ると、1893年の此のミシシッピー沿岸の大嵐は、或る島の全住民を全滅させ、尚ほ被害地域数百哩四方に及んで、ベイヨウ・クツクだけでも死者八百を算したといふ。バラスの町でも人命の損失は実に夥しいものであつた。

信じられない程に短い期間内に、ニューオレアンズからの救助船がミシシッピを下つて来て、生在者は手の届く限りの救護を受けたのであつた。

斯うした恐ろしい沿岸の暴風は、決して屢々襲来するものではない。そうして此の冒険好きのポールが、斯る特殊の機会に遭逢したといふことは、其処に天の導きがあつたのであらうと思はれる。

筆者は、此のミシシッピ下流地方を突如として襲つた大津浪に就て、充分に叙述するだけの筆を持たぬことを悲しむ。既に長い星霜を閲した今日、尚ほその夜の惨状と恐怖とは、毫も記憶を去らないのである。

ニューオレアンズの不景気は尚ほ続いた。それ許りでなく流石に此の旅人の熱心な憧憬にも、脚か倦怠の色が見えた。そうして新たなる冒険は彼を差招いてやまなかつた。

旧友の許に帰る

ポールは知つて居た、ジャクソンヴィールへ行けば、未だ自分の立場が昔

のままに残つて居て、ジョージ・クラークは必らず喜んで自分のまだ巡回して居ない地域の仕事を、提供してくれるであらうと。此の点を思ひ起したポールは、嘗てあれ程に有難いものであつた其の立場に戻ることに決心した。

前にポールがジャツクソン・ウイールを去つたのは3月上旬であつたことを読者は記憶して居られるであらう。彼が再び其処に立戻つたのは∞月上旬であつた。この7ヶ月の間に彼は、華聖頓、ルイスヴール、ノーフォーク、旧南部の幾つかの小都市、バルティモア、フィラデルフィア、市俄古、ニューヨークを訪問し、また好かつたことには前後2回大西洋を横断した。言ふまでもなく此の期間は、彼が凡ゆる險難を冒して人生を觀察しやうとの目的に当てた此の5年の中でも、特に最も著しい活動的部分であつたのだ。

此の以後のポールは、更に第二の目的を加へた。それは将来の必要に備へる為めの蓄財といふことであつた。斯うした二つの目的を意中にして、ポールはジョージ・クラークの用命を帯び、完全に一年間を旅行して歩いた。此の間、主人と一販売人との間には諒解があつて、同じ土地を二度と踏むといふことは殆どなかつた。その諒解といふのは他ではない、此の地方巡回の仕

事が何時まで持続するかは、其処に何時まで新しい地域が提供されるかに依つてきまるといふのであつた。これは事業主としては可なり思ひ切つた約定でなければならなかつた。巡回売込から挙げられる利潤は、決して大きいものではなかつたのである。或る日ポールが其の事を言ひ出すと、ジョージは答へて言ふのであつた、「僕の考へでは仮りに商売上の利益が全然挙がらなくとも、君に地方を歩いて貰つて居ることは、僕にとつてそれだけの報酬があるのだ。君が南部地方を歩き廻つて居る間に、多くの商売関係の人々の頭に刻みつけてくれる印象そのものが、既に僕の負担する経費を償ふに充分な商売なのだ」と。

ジョージ・クラークは、主としてジャツクソンウィールに住んでは居たが、事務所は紐育市に在つて、殆ど全国何れの州にも取引関係を持つて居た。彼は自分で自分を作り上げた模範的人である。地方の地盤に就いて彼とポールが語り合ふことは殆ど稀れであつた。

それは二人の考が目標を同じくして居なかつたからである。一人の希つた所は取引の拡張であつた、そして他の欲した所は社会の観察であつた。

ポールは南部諸州、キューバ、バハマ群島と一年の巡歴を終へて帰つて来た。ジャクソンウィールのクラーク家を尋ねて其の客となると云ふこと、それはポールにとつて実に愉快なことであつた。主人とその販売人とは最も親密な莫逆の友であつた。実際二人は、少しでも長い時間を語り合つて居ることを楽しんでもので、時には相對して夜の明方までも座り込んで居ることが屢々あつた。秩序正しい家庭への斯うした邪魔者を、クラーク夫人はどうしていつも能く我慢して居られたのであらうか。兎も角大抵の場合、列座するのは3人であつた。：ジョージとガートルードとポールとだ。此の3人の間の親交は未だ嘗て一度も中断したことがないといふこと、そしてその間には今以て少しも30年前と変らない誠実と温情とが保たれて居るといふことを、筆者は茲に附言し得ることを喜ぶものである。

五年修了前の欧州旅行

約束の12ヶ月といふ期間が愈々終りに迫つたので、ポールはジョージに、

近くお訣れしなければならぬといふことを豫告した。「もう君の行き度いと思ふ所はないのかい」とジヨージは尋ねた。「さうさ、実はもう一ヶ所あるのだ、併し君が其処へ僕をやつてくれるかどうかと思つて居るのだよ」、ポールが斯う答へると、「それは何処かネ」と再びジヨージは尋ねた。

「歐羅巴さ」とポールは答へた。

それから二週間後には、此の放浪者はまう一度太平洋上を漂ふて居た。

彼は主人でそして親友であるジヨージ・クラークの命令を受け、外国石材買付の約定を改訂する為めに、蘇蘭の花崗岩生産地から、愛蘭、白耳義、及伊太利の大理石地方を訪問せんとするのであった。

彼はエデインバラを問ふた。これより前14年の昔、この古典的な都市に住むジョン及アンニー・タムソンといふ夫婦の間に、5番目の子でジーンといふ可愛らしい輝いた眼の女の子が生れた。彼女の母は言ふ、ほんとに生れて初めての朝餉の時、ジーンは何事か問はしげに母の眼を見上げて、そしてさも満足らしく俯いたのであつたと。其処に其時に結ばれたらしい親愛の因縁は、生涯を通じて保たれるのであつた。エデインバラを訪ふたポールは、

勿論のこと、将来のポール夫人が「ジヨツク・タムソンの八人兄妹」の一人であるといふことは知らなかつた。否、さういふ家族があるといふことすら知らなかつた。

ジョン及びアンニー・タムソンの子供等は、皆なアルヴィンとノツクスの宗教に深く帰依して居た。その信仰は厳格な修練で、一度之に従つた子供等の将来には、必ず力強い影響が残されるのであつた。

日曜日には、子供等を海浜へ連れて行くのがタムソン夫婦の習はしになつて居たが、その時は末の子を除いて他の者は皆徒歩で行くので、その道程は往々数哩に及ぶことがあつたと云ふ。

赤子のジョーイーは「プラム」に乗つて、其れを両親と子供達とが代るがわる押して歩いた。時に距離が余りに遠い場合には、メリー其他の小さい子供達もこの「プラム」に乗せて貰へるのだつた。打寄せる白浪を眺める時、そして潮風の香に触れる時、ジーンは甘い追憶に浸るであらう：父や母や兄弟や姉妹や皆な打連れて過ぎた浄らかな幼年時代の追憶に。ジーンとポールとの会合については後に記述することにする。

ポールが英吉利、仏蘭西、瑞西、伊太利、奥太利、独逸、白耳義、和蘭などに過ぎした興味深い数個月の事や、其の間に彼が作つた友人達の事に就ては、筆者はいくらでも愉快な筆を走らせることが出来る。併し茲には新しく出来た唯二人の友人の名を挙げるに止める。その一人は後にロータリー・クラブの一員となつた倫敦のフランク・ワッツで、他の一人は伊太利カーララのエス・エイ・マツクフアールンである。

ポールはマツクフアールン家の客となつて、他の比較的交りの薄い人々に向つては到底豫期することの出来ない程の厚遇を受けたのであつた。北部伊太利の山間に位して居たこの小さな芸術の中心地に滞在して居た間に、彼は多くの立派な英国人や米国人や伊太利人などに紹介され、また色々な地方に向つて趣味の豊かな旅行を楽しむことが出来た。

マツクフアールン夫妻が彼をどれ程親密に待遇してくれるかといふことは、彼の滞在の終り頃に起つた一つの小さな出来事が能く説明する。マツクフアールン夫妻はポールが成るべく近い道を通つて帰国しやうとして居ることを知つて、それが大きな誤りであること、寧ろ成るべく多くの地方を廻遊して

行く方がよいといふことを頻りに勧告するのであった。

「ポール君、失礼に當つては困りますが、旅費の点が君の旅行を制限するのではないんですかね」、マックフアーラン氏は遂に斯う迄一言つた。事茲に至つては最早ポールとしても資金の手薄さを自白せざるを得なかつた。

「よろしい」、マックフアーラン氏は言ふのであつた、「実はミセス・マックフアーランが前から私に、この事を確めてみるやうにと言つて居たんです。要するに私達は、ピザやレグホーンや、ローマや、フロレンスや、ヴェニスや、ウインナを見せずに、貴君を米国に帰したくないんです。その後に貴君が何処へ行かれやうと、それは私達の構ふところではありません。金の用意は出来て居ます。そして貴君がお国に帰へられてから返へして頂けば結構なんです」と。ポールは感謝に満ちて其の金を借りた、そして他日滞りなく返へした。

歐洲の旅行を完全に終つたポールは、大いに眼界を広め、社会と人間に対する信仰を増して米国に戻つた。

投 錨

ポールは再び紐育へ出る前に、市俄古に留つて将来の生活に備へる計画に取掛つた。豫定の3年半は既に経過して居た、実に大事な3年半であつた。先づ彼は金の必要から再びジャツクソンヴィールに行き、ジョージ・クラークと提携して、偶々計画されて居た同氏の或る分岐的な併し建設的な仕事に従事した。

その仕事でまた非常に愉快な半年間を暮らしたポールは、三度ジョージと訣れることになつた。ジョージは一組合員として自分の事業に協力するやうにと、力を籠めてポールを説いたのであつたが、併しポールは彼の生涯の筋書に忠実なるべく、また一つには彼の最初のそして最も大なる恩恵者である祖父の希望を心に銘じて、どうしても市俄古に出なければならぬのであつた。

ジョージはポールに色々と言つた中に、斯んなことを言つた、「君が市俄古に定住することにどれ程利益があるか知らないが、若し君が僕の所に留まつ

て居れば、必ず市俄古へ行く以上に金が出来ると僕は確信するんだがネ」と。
ポールはそれに答へて言つた、「君の言ふ通りであることは僕もよく知つて居る。併し僕は金を作るために市俄古へ行くのではないのだ、一個の人生を生きるために行くのだから」と。

ジョージは、果たしてポールに永久的の生計に定着するだけの能力があるかどうか疑はしく思ふことがあつた：疑はしく思ふことがあると告白して居た。併し最も係り合ひの深いポール自身にしてみれば、其の点の危俱はないのであつた。彼の意図は夙に定まつて居たのであつた。

尚ほ数ヶ月はポールに余裕があつたので、未だ紐育を殆ど知らなかつた彼は、市俄古に定着するに先立ち、此の東都の大中心地に就いて今少しく知識を得て置き度いと思つた。

それに対してジョージは、態々紐育の自分の店の支配人をジャックソングイルに呼び寄せて、ポールを一時的の職に就けたといふ程の友情振を、復たしても示したのであつた。

遂に1896年1月27日にポールは、豫定付けた五年間にあと四ヶ月を

残して、彼の生涯の仕事を愈々取上げるべく市俄古の街に着いた。

その時はまだ対他奉仕の理想に結合する実業家及び専門職業者の国際的団体といふやうなものに就ては、何等の夢想も持たされては居なかつた。まだ其処には各種の性質の経験が積まねばならなかつたが、併し一ツの興味深い基礎は既に置かれて居た。彼は既に人生なるものを其の或る最も悪い状態の下に於て見て来たと共に、また或る最も善い状態に於て見て来た。美しいニューヨークランドの山間にある理想主義的な家庭の平和から、倫敦のホイイトチャペルの喧燥までは、或ひは市俄古のヘイマーケットの暴動に於て其の極限点を突破した人類の大渦までは、其処に甚だ遠い距離が横はつて居た。悪の真只中に余りにも夥しい善を認め、荒涼として頼るべからざりし所に余りにも豊かな友愛を見出して、そうして実業家に向つて信義と信任とを置くべき斯程にまで充分な理由を有つたところの受性の強い若者が、実業家及び専門職業者の団体的結合の理想に頓悟し易かつたといふこと、それは不思議であつたらうか。そして一度其れに覚醒した時、既に自ら照らして来た足跡に向つて、また全世界に向つて、其れを普及させることに、彼が燃えるよう

な熱意を持ったといふことは、また不思議であらうか。ロータリーは彼の幻想の、彼の念願の、彼の祈誓の生んだ愛児であつた。そして此の愛児の爲めには、曾て収めることの出来た如何なる利得をも提げ供へるのであつた。

再び過去を顧る

偕て以上に述べたやうな一つの人生の中に、何事か学ぶべきことがあるであらうか。其処にはこれから色々の経験を積まうとする世の父親達や或ひは若い人々にとつての教訓が含まれて居るだらうか。

殆ど半世紀に近い過去を振り返へつて見る時、筆者は其処に、もつと有効に短縮することが出来たであらうと思はれる多くの遠廻りな道程があること、其処に与へられた一定のエナジーは、もつ遙かに良い結果を生んだであらうことを発見する。

読者はポールが或る事情の爲めに、その自然の保護者即ち父から受くべき恩愛の影響を奪はれて居たと云ふことを記憶して置いて欲しい。彼の祖父は

能く祖父に期待し得べき全部のものを果した、否な其れ以上を尽した。が併し祖父は祖父であつて父ではなかつた。

彼等が第二の家族の育成に取掛つた時、祖父は65歳で祖母は54歳であつた。

3歳と65歳との間には余りに大きい間隔がある。世の祖父母の常として孫達と寛大に一致するが為めに前屈みになつて居る、そして彼等は青春の激しい澁刺性に対して、有効に継続的に拮抗して行くだけの道徳的力を持たないのが普通である。

比較的早く両親といふ關係に生れ出た者は：両親の間に早く生れた者は、その本人の自覚し得る以上に幸福である場合が多い。人生の行程を豫定付けらる多くの影響の中で、両親との交渉關係の影響程に大きなものはない、勿論この場合両親が親たるの責任を是認するとしてである。父と息、母と娘との交わりの間に生れる値知らぬ恩恵なるものは、両親の比較的晩年に生れたる子供とその両親との交渉關係に結果されることは比較的少なくて、両親の比較的若い時代に生れた子供とその両親との交渉關係に結果されることが遙か

に多いのである。後の場合の両親は若くて元気で、その見地は子供等の見地に余りに酷い懸隔を持たない。幸福なのは、子供の眼に自分等の仲間の総大将として映ずる程に年の若い父を持つ子供である。不幸なのは、子供の眼に他の時代の人間として映ずる程に年代を隔てた父を持つ子供である。

両親との交渉関係が至極密接である子供は、将来世の中に重きをなす人間になる。これは筆者が長い年月の観察から結論した処では、殆ど不易の原則だと思われる。此事許りはほかの如何なる考量点にも無関係に動かし難い真実として通ると筆者は信ずるのである。

育てられる環境が、高尚な生活であると低級な生活であると、貧困であると富裕であると、都市であると田園であると、教育上の特権を供すると否と、其れ等総てに拘らず、親父が息子の相棒である、おふくろが娘の許し合つたお友達であるならば、萬事良く成行く筈である。

以上の物語りを読み続けて来られた読者諸君が御承知の通り、ポールはただ保護者を必要とした時代から独り歩きをして居た。心切な確実な他の人間の手を必要とした危険な時代から、野や山を無鉄砲に勝手に飛び廻つて居た。

それから立派な教育上の便宜は与へられたが、彼は殆ど其の有難味を認めなかつた。どんな便益でも其れが容易に得られれば得られる程、その値打を認めることが益々少なくなるということは自然である。仮りにポールが額に汗して教育費を稼がなければならなかつたとすれば、さうして受ける教育には充分な価値を認め、従つて大いに其れを尊重したであらう。

併し事實は事實の通りであつたが為め、ブラツク・リヴァー専門学校もヴァーモント専門学校もヴァーモント大学もプリンストン大学もアイオワ大学も悉く、人生と呼ぶ長い出来事の一連鎖の部分的環輪に過ぎないことになつた。彼は教練を必要としながら其れを受けなかつたのだ。彼が得た唯一のもののは経験であつた。彼は其れを学校生活に於て修得した、そしてその後の生活に於て更に之を豊富にした。経験は緩漫だが併し確実な教師である。一體人間といふものは、知識を取入るべき凡ゆる機会に背いた後、險阻で而かも慘憺たる経験の難路に営々の苦業を踏んで其れを求めものだ。

ポールは偶々悟つた、生活から何物かを得やうとすれば、其れだけのものを生活に与へなければならぬ、其れに入れ込む以上のものを其れから求める

ことは出来ない。併し斯うした事を学ぶ為めには、敢て学校へ行く必要はなかつた、或は彼のやうに悪戦苦闘する必要はなかつた。彼の祖父はあの裏庭の小舎で、あの暑い夏の午後を何回も繰り返しながら、喜んで彼に総てを教へて聞かせる積りであつたらう。

ポールが苦難に益せられたことは疑ない。見知らぬ人間ばかりの間で寒冷に傑き、飢餓に悶へ、病苦に呻吟することには、其処にどんな意味があるか、全く自分一個の力だけに頼るといふことは何事を意味するか、斯うした事は彼は学んだ。彼には困難の場合に両親に頼らせるやうな誘惑がなかつた、彼は両親に訴へるといふことは全く学ばなかつたのだ。

却つて必要に応じては彼の方から両親を助けねばならなかつたのだ。

さて斯うして野や山や海で苦業を積んだ後の彼にとつては、市俄古に足場を作り上げることに伴つた苦しい試練の如きは、驚くに足らなかつた。

唯一の事が確實であつた。経験修業の5年間はポールの視野を拡大し、彼の人間に対する理解を向上させたことである。

遂に1896年の早春、ポールの生活は真面目に定着した。放浪は終つた、

小説的な空想の時代は過ぎた、残る所のものは殺風景だけであつた。さて紐育からの列車が、市俄古に……

彼の永遠の郷土たらんとして居た都に突入して来た時、彼は将来に向つて尚ほ何事かを思ひ耽るのであつた。憶、彼は果して成功を勝ち得るであらうか。過去15年間の成行はどうであつたか。今彼が故郷を訪れるとしたら、彼は成功者と目せられるであらうか、失敗者と嘲けられるであらうか。

第三編

法律の実務に就く

ポールが活動の舞台として市俄古を選んだのは、其処が社会的紛乱の巷として有名であつたからで、他には何の理由もないのであつた。苟くも生活の地を選定する理由としては、其れは寧ろ薄弱なものであつたかも知れぬ。然り、其処には他に何等かのローマンスが残つて居る筈であつた。



弁護士事務所開設
ポール 28 歳

ポールは弁護士開業の免許状を得て、最初は或る事務所内に机借りの同居をしたが、間もなく或る陰鬱なビルディングに一組の小さい事務室を借りて、自分はその中の一室を用ひ、他の数室は他人に再た貸をしたため、結局彼自身の事務室は事実上無賃となつたのであつた。彼は



20世紀初頭シカゴ

将来の収入といふものを過大に豫想し過ぎたと同時に、将来の失費を過小に見積り過ぎた。そして彼は人間といふものが如何に小さな収入で暮らして行けるか、また其れによつて如何によく大都市の一弁護士たる體面を保つて行けるかといふことを知つて、屢々意外に感じたのであつた。併し斯した彼と同じやうな人間は他にも多くあつた。彼と事務所を共にして居た一人の同僚でリュイス・ダルトンといふインディアナ大学出身の男なども、市俄古に於

ける困窮時代を味つた一人であつて、此の男からポールは多くの有益な指導を受けたものであつた。例えばリュイスが「地獄の半端台所」といふ如何にも適切な名を与へて居たところの、ファイフス・アヴエニユーの或る地下食堂に紹介して呉れた。リュウが此処を推薦した要旨は、シロップ付の「大盛ホイーツ」が白銅一つといふ最も謙遜した支払で饗応されるといふ所にあつた。それは實際絶好の朝食場であつた。

リュウは暫く馬車小舎に寢台を持つて居た。その馬車小舎は空き物ではなく、現に盛に使はれて居たものであつて、リュウが夜間眠る寢所は、昼間は貸馬車の御者が占領することになつて居た。これはまた結構な約定であつたので、若し次のやうな事件が起らなかつたならば、彼は此の使用中の馬車小舎を、永遠の疇としたであらう。事件といふのは、或る日の正午を少し過ぎた頃に、リュウが或る宴会行の服装に着更へる為め、例の家庭に立戻つてみると、其処には彼の御秘蔵のアルバート服が紛失して居るではないか。

貸馬車の御者君は其の日、葬式馬車の御者台に此の端然たる服装でちやんと馬を駆つて居たのだ。

リュウは御者が余り酷いと頻りに憤慨して居た。

1896年は、合衆国全體が財界の大變動に襲はれた年であつたが、殊に市俄古では、這般の世界博覧会景気の積極に過ぎた反動もあつて、その不況は一層痛烈であつた。市中の或る部分などでは、貸店舗や貸事務室が殆ど半数以上空き物になつた。そして欺瞞と廢頹とが日々の秩序となるに至つた。

その時の市俄古は、取分けて何処が悪いといふやうなものではなくて、悪

い事態は各区の境界を越へて全市に蔓延り、殊に所謂ループ即ち下町一帯が甚しいのであつた。近年市俄古の事情は益々悪化する傾向で、其れは未だ嘗て覚えのない所である、といふやうな説を昨今能く耳にするが、さういふ論者には、1896年の市俄古を見せ度かつた。

御用無しの実業道徳

世相と共に実業上の事態も劣らず悪いのであつた。1896年に破産法が通過したが、その直前数年間に於ける詐欺行為の流行は、実に甚しいものがあり、また破産法の通過後も尚ほ数年間は同じ風潮が続けられたのであつた。破産法施行の結果は、寧ろ詐欺行為の量を増すばかりであつたと共に、其れ等の詐欺を行ふ方法及び詐欺に懸つた者が如何に其れに対して復讐するかの方法を教へるものに過ぎなかつた。

20世紀初頭シカゴ小利の伴はぬ大害はない。斯うした詐欺行為の流行は、能く弁護士達に仕事を供給した。

そして裁判所は差押や物権回復の令状発行に忙殺されて居た。

米国民の信用の為に言はなければならぬが、商業上の詐欺の犯行者は多く外国人であつた。不幸にして小売方面は可なり広い範囲まで外国人の掌中に握られて居たのであつた。蒔かぬ地に刈る一つの常套手段は放火であつた。併し最も流行した方

法は、信用の許す限り買込んで置いて、忽然風のやうに夜逃げをしてしまふことであつた。

詐欺によつて得られた商品の捌き口となつた二個の大きな競売市場が、市俄古の或る下町の一区にあつた。其れ等不正品の大部分は、此の市場で捌かれて居たのであつて、實際の話が、詐欺の現場から直接に此れ等の市場に運び付けられた場合も甚だ少なくなかつた。



20世紀初頭シカゴ

夜が更けてから商標其他の目印の全くない巨大な荷物自動車は、略奪される商店の裏手小路に引入られ、やがて今一つの小路に運転されると、其処は競売市場の裏口であつて、其の広裏な土塀の中に、真夜中の獲物は夜明けを待たず收容し尽されるのであつた。

斯うした事情の間に、信用貸卸売側の商人は、詐欺的意思の檢察に綿密な鑑識を持つやうになつて行つた。例へば約定買主の註文品が、其の種商品の明かな仕向地方の需要常態から見て余り高級品である場合とか、註文品の數量が理屈に合はぬ程に大きい場合とか、其の他何等か嫌疑の掛かるやうな註文は、全然拒絶するやうになつたのであつた。併し斯うした剣呑な事件は、商取引が終つて事実上商品の受渡しが済んだ後に始めて発見される場合が多かつた。其の時早速依頼されるのが弁護士であつた。即ち彼は依頼主に代り担当の保証金を積んで、差押命令或は物権回復命令發送の手續きを取るものであつた。

此の場合に若し物件の占有者が引渡しを拒めば、強制的に押収して現品を旧所有者の手に取戻すのであるが、時によると被告の方でも法律に訴へて頑

強に抵抗し、有利な見込みの立つ場合には、保証金まで積んで抗議すること
もあつた。併しそのやうな場合は甚だ稀れであつて、嫌疑の正しかつたこと
が証明されると云ふ方が普通であつた。此の種犯罪の流行が知れ渡つて来た
ので、大抵は、事件を法庭に持出して争つて見たりするよりも、足もとの明
るい中に退却してしまふ方がよいといふ風であつた。

稀れには司法の人達が強制の処分を行はふとする時、腕力の抵抗に会ふ場
合があつた。

併しさうした抵抗の成功した例はなかつた。窓硝子は紛碎され、扉は蹴破
られ、障碍物は蹂躪されて、店内は司法権に武装された人々の闖入に任され
る他はなかつた。

斯うした商業上の詐欺犯人をして、敢て其の居住を棄てしむる要のなかつ
たのは、聯邦破産法の通過したためであつた。彼等は彼等に信用を許した人々
を嘲笑しつつ、自分等の幸福な家庭に安住することが出来るやうになつたの
であつた。「最も多く他人に仕へる人は、最も多くを利益する人だ」との精神
の如きは、全く其の片影さへも去つて、「捉めるだけ捉め」といふことが時代

の吶喊其のものとなつて居た。

開業2・3年のポールは、ヴァーモント及びジョージタウン両大学出身のエロイ・エス・クラークとリュイス・エス・ダルトンと彼との3人が組合つて開いた法律事務所働いて居たのであつたが、其後クラークが、デンヴァーに開業された合衆国上院議員ウイルコットの事務所に移るやうになつたので、ポール等組合の事務所は解散した。クラークは其後ウイルコット事務所組合員になつた。またダルトンは其れから1、2年後、コロラドの山岳跋涉中に雪崩の為に生命を落した。

時期好転

其の後1900年になつて、合衆国内の景気が大半恢復に向つた時、市俄古の経済状態も同様の趨勢に立戻り初めた。苟くも落伍するだけの弱点を備へたものは殆ど悉く落伍し尽し、破産法は一般の罪障をきれいに洗ひ去つた。時代は極悪に行詰つて、最早其れ以上に悪くなりやうがなかつたのであつた。

經濟界の進歩と共に、道德上の事態も亦た改善されて行つた。下町方面に盛に繁昌して居た酒場や密会所の閉鎖は、腐敗の巷を或る極限された範圍に遮断し、売娼窟の閉鎖は国民一般の真に希望する所だとの州検事の確信に依つて強制的に執行された。賭博場の大きなものは、早くから悉く消滅して、其処に人々に頽廢時代を思ひ起させるやうな豫影は殆ど無いようになつた。勿論、或る種の暗い犯行や賭博が、全然其の跡を絶つた訳ではなかつたが、兎も角其れ等は甚しく減少したのであつた。

斯うした精神方面の恢復に伴つて更に市俄古市内の外形状態も一般的に改善された。前には泥土や汚水の爲めに通れなかつたやうな悪道路が、時によると下町にさへ見受けられたのであつたが、其れ等の悪道路は各方面に亘つて舗装され、ヂエツトーや南ハルステツド街などさへ、余り汚らしい所と言はれないやうになつた。所謂「御馳走の整つた」時代となつたのであつた。

市俄古に於ける探検

ポールは既に社会の凡ゆる事に接触した。時に政治方面に手を染めて見たのであつたが、彼は其処に発見した仕事にも交りにも好意を持つことが出来なかつた。彼は又貧民窟の社会状態を研究した。そして近距離から一層深く其れを研究するために、その現実の場所に住居を移さうかといふことを深刻に思ひ悩んだのであつた。その階級の人々の生活態度は、彼の大きな興味を惹いたのであつて、その点からは、彼は必ずや此社会にも深く入り込むことが出来うべき筈であつたが、遂に其処まで行く途が開かなかつた。それは其処に一つの途を開くだけの決心と、目的の確実性とに於て、彼に欠くる所があつたのだ。兎も角彼は市俄古在住の全期間を通じ、色々の方法によつて眞に人生と謂ふものを観察することが出来た、そして詮じ詰めれば其れが彼の最も欲した所であつたのだ。

市俄古の下町のゴロゴロ石には、衷心から嫌惡の情を禁じ得なかつた彼は、日曜其の他の休日を、若し天気ならば、方々の公園の青草の上に過すのが常

であつた。併し彼は毎に高い山岳や輝く湖水や唄ふ溪流やそして少年時代の友達遊びなどを、恋しく思はずには居られなかつた。

ボヘミアン生活

ポールの収入が増加するに連れて、其の支出方面も同様に膨張して行つた。彼の好奇心は少しも衰へる所がなく、益々人生をその規則的、不規則的両面に於て観察し度いとの希望を持ち続けたのであつた。

そこで彼は新聞記者クラブに会員たるの席を置いて、オー・パイ・リード、ボーリング・ジョンソン、コロネル・ヴィッツシャー、プレツス・ウードロフ、フォーレスト・クリツセーなどの名士、其他の文筆の人達と屢々会食した。彼も亦新聞シンヂケートの爲めに多くの短篇を書いた。

市俄古市内のボヘミアン生活に関する彼の知識は、何人にも劣らないものであつた。彼は到処の伊太利レストラン、希蠟レストラン、独逸レストラン、或ひは匈牙利レストランなどを悉く知つて居て、市俄古を知らない友人達を

市中に案内して歩くことを大いに得意として暮らした。

彼はまたニューウエル・ドワイト・ヒリス及びフランク・ガンソーラスが牧師職に在った間のセントラル・チャーチに通つて、日曜毎に協会の勤めをも為したのであつた。併し彼の教会通ひは独りセントラル・チャーチに限られて居たのではなく、宗派を異にする各種の教会に礼拝するといふことは、彼にとつては毫も異例ではないのであつた。すなはちエシカル・カルチュア宗、クリスチャン・サイエンス派、カトリック教、クエーカー宗、セオソフイカル派、バハイト派、猶太教、メソヂイスト派、プレスヴィテリアン派、バプテイスト派、コングレゲインシヨナル派と、悉くの宗派を夫々に就いて見聞した結果、結局何れの宗派も皆な同一の目的に到達すべく精進して居るのであることを悟つた。

彼は豫め人生を一般的に研究することを好んだのであつたが、先づ彼自身の住む都市の詳細を究め度いといふことは、彼の特に熱望した所であつた。そこで彼は市俄古の各区内の研究を容易にするために、屢々其の住居地を移転した。

其れは彼が結婚するまでは実行することの出来た当該問題の実践的解決方法であつたが、結婚後は之れを実行することが出来なくなつた。独身生活の十五年間に、彼が市俄古市内及郊外に居を転々とした数は実に三十回に及び、愈々結婚する其の当日迄も、この移転記録の上に更に新たなる記録を作ることに続けられたのであつた。此の点に關してはポールは、長距離選手権に値する者と謂ふべきであつて、何事に關しても彼は「地獄の半端台所」を基礎標準としてたのであつた。併し職務上の考慮から、事務所に就いては此の移転手段を採用することが出来ないので、常に彼は一定のアドレスに於て見出だされて居たのであつた。

ポールが三十二年の法律生活中に交りを結んだ老若沢山の法律家の中で、成功した人は極めて一小部分に過ぎなかつた。彼等の大多数は路傍に頓挫し或ひは落伍してしまつた。

大都市に於ける各種職業の中でも、最も競争的な此の職業の激烈な内部的生存競争は、普通の水平線に在る人々にとつては余りに重荷に過ぎるのであつた。其処では精神上拉に肉腱上の総ゆる素質が、最も苛酷な試練に掛けら

れる。遺伝、生立ち、境遇、さうした事柄が総て関係する。其の間往々にして、最も貧弱と見える素材が却つて最も優良な成果を示すことがあると同時に、最善の素材と見たものが実は最も貧弱なものであつたことを証明する場合がある。貧困の厳格な教訓は、屢々成功の基を裏付ける精根をなすことがある。

ヂエツトーに生ひ立つた人間が、由緒ある亜米利加人の旧家に生れ、高等な教育を受け、力強い伝統の勢力を背景とする人間を追ひ抜いて行く場合が屢々ある。

ポールは褒めたことではないが事務所の主任以上の位置を占めたことはなかつた。若し彼が最初から有力な良い法律事務所に加はつたならば、彼は一段と遙かに優れた地位に達したであらうと共に、多くの痛烈な打撃を受けないでも済んだであつたらう。併し当年の彼には、此の大都市は未見の地であつた。そして何処に行くのが最も良策かといふことに関しては、極く些細な知識すら持ち合せなかつたのであつた。

約三分の一世紀の間にポールが仕事を共にした人々の内から、ジオセフ・

ジエイ・パーカーの名を挙げる事が出来る。此の人はポール法律事務所に勤続すること十年以上に及んだ人である。

パーカー氏は、ポールの父と同年輩位の人であつたが、二人の交りは非常に親密で、またポールを大いに裨益したのであつた。「小さなジョー」・オハイオ州のキャントンに居た頃に斯う呼ばれて居たパーカー氏は、後年合衆国大審院の判事に任命されたジアツジ・デーの法律事務所、暫く組合弁護士をして居た人であつて、彼が市俄古へ来たのは其の後年のことである。次の事實は、パーカー氏の技量が優秀と認められて居たことを証明する好材料であらう。即ち嘗てマツキンレー氏が、合衆国大統領の任に就くべく華聖頓に赴くの時、去るに際してパーカー氏を択び、特に託するにマ氏の備忘録に尚ほ残つて居た事件全部の処理を似てしたのである。

パーカー氏のような人ならば、市俄古市中の法律事務所の中何れでも、彼の好む所に従つて択ぶことが出来たであらうことは明かであつたに拘らず、敢てポールの事務所に参加したのは、二人が文学研究に於て趣味を共にしたことから生れた、友誼関係の結果に外ならなかつた。

この文学の点に放ても、年長のパーカー氏は年下のポールに教導的の誘掖を与へた。パーカー氏は仏蘭西文学及び露西亜文学を深く研究して居た。彼の考に依ると、バルザックは凡ゆる性格描写に於て最もリアリスティックなものであり、ドストエフスキーは感激、殊に人間苦から生れる感激を最も良く理解するものであつた。然るに彼は、ドイツケンスを自分の愛好の中に加へることを拒んだ。

併しパーカー氏は、其の一般文学の愛好が、自分の法律研究を妨げることが許さなかつた。彼の頭脳は、殆ど間然する所のない敏捷さを以て、一事件の要点に傾倒し得るのであつた。実に彼の天才は、「籾穀から麦を分け離す」、或は彼自身の言葉に従へば「枯草を取り除く」ことに長ずる其の直感的能力にあつた。

一度彼の脳裏を通れば、大抵の事件は忽ち或る一つの要点に帰納されるのであつて、其の要点に就いて検討することが、彼の仕事なのであつた。その結果、彼は誤つた書類或は不要の材料の提出に依つて時間を空費したり、徒に裁判上の面倒を忍ばねばならぬやうなことがなかつた。

苟くもジァツジ・デーが立てた先例には、ポールは喜んで追従するのであつた。彼はこの「小さいジヨ」の爲めに、重大な事件には何時でも、極力援助しやうと常に心掛けて居た。

パーカー氏はその晩年に於ても甚だ多くの事件を手掛けたのであつたが、1922年に卒然として逝去してしまつた。当時彼は或る重大な遺言事件を処理すべく準備をして居たのであつたが、遂に其れを完結せず、永遠に去つたのであつた。古いヴァイオリンはその最後の調べを奏した。

ロータリーの概念

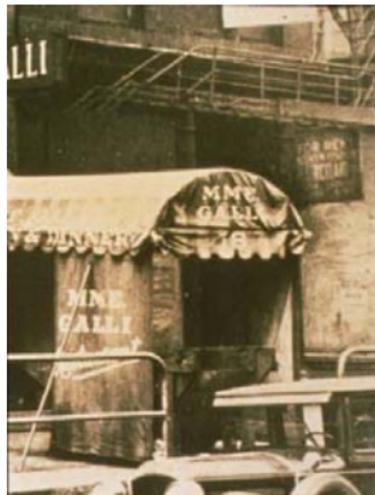
1900年の夏の或る日、ポールはロージアースパークに住む弁護士の一友人から、其の家の晚餐に招待された。食事後二人は連れ立つて附近の街頭を散歩したが、其の途々二人は種々の商店や事務所を訪問し、其の度毎にポールは此の友人から各店の主人に紹介されたのであつた。ポールは此の夜の散歩から深い印象を受けた。友人が近隣の実業家達の間、多くの良い知人

考へた。そして各種の事業家達が社交的に結合した一個の團體といふやうなもの、彼は概念してみた。続いて彼の考へた所は、さうした團體の各員が、夫々の属する特殊の事業又は職業を十分に代表して参加して居るのであつたならば、其処には特別の便益が生ずるであらうと。蓋し各員は相互に助け合ふであらうと考へられたのであつた。彼は遂に斯うしたクラブの組織を思ひ立つた。偕て誰に向つて加入を勧誘すべきか。彼の確信し得た一つの事は、先づ極めて心安い間柄の人々でなければならぬといふことであつた。そこで直ちに彼の頭に浮んだ人は、弁護依頼人の一人であつた石炭商のシルヴェスター・シールと鉦山技師のガスタヴァス・ロエーアとで、その次にポールの事務所印刷物を納めて居た印刷業者のハリー・ラツグルスを考へた。彼等は皆な近付き易い親しい人達であつた。その次に彼は、駄目かとも思はれる人々を考へて見た。

ポールはシールともガスとも問題を相談し合つた。ポールは此の二人を非常に好いた。

そして此の二人も互に好きになれるであらうと彼は考へたから、至急に二人を引合せたところ、案の如く両個は直ちに好意を持ち合つた。両個の過去の生活の中には、彼等が互に良く理解し合ふであらう、そして互の交友を樂しむに至るであらうとのポールの確信を、その通りに証明すべき多分の要素があつたのであつた。二人ともに地方の小社会から、大都市の市俄古に上つて来て居たのであつた。：シルヴェスターはインディアナ州のクレイ・シテイーから、そしてガスはイリノイス州のカーリンヴィールから。また二人共に独逸系の両親を持ち、同様に独立独歩で働いて、この大都市に一かどの有力な職業を築き上げた人達であつた。

1905年2月23日の夜、第1回の会合をユニテイー・ビルディング内のガスの事務所で開催した。其処へ集まる前に、シルヴェスターとポールとは、



ポールの通ったイタリヤ料理店・マダム・ガリの店



ROTARY 最初の会合

市俄古の中心に近い北方の市街の或る伊太利レストランで晩食を済ませたのであつた。ガスは前以て他の二人と約束して置いた通り、彼の個人的友人のハイラム・シヨレーイといふ洋服裁縫師を豫め招いて置いた。シヨレーイは

メイン州リツチフィールドの産で、既にポールもガスの紹介によつて知合ひになつて居た人である。会合は互の個人的経験談によつて大いに活気立つたが、その後、於てポールは、彼の計画の一般的目的に就いて陳べたのであつた。

次に第2回の会合に於ての重要事項は、印刷業者ハリー・ラツグルスの紹介であつた。

ハリーは将来市俄古クラブの上に、重要な役目を演ずる使命を持つた人であつた。蓋し彼の提案に基いて作られたクラブの歌を通じて、彼の功績は全運動の感ずる所となつて居るからである。



ハリー・ラツグルス

ロータリー初期の精神は、屢々利己的であると評されたのであつた。實際、此の批評の妥当を証明するやうな多くの点があつたことは確かであつた。大部分ポールの書く所であつた当時のロータリーの文献は、会員相互の職業上の利益を高調したものであつた。新会員の勧誘は、屢々商売上の利益でふ基調に直接訴へて

なされたのであつた。併し此の点にすらロータリーの特性は存するのである。：或ひは勝手に見えたかも知れぬが、其れは正しい真実である。その主とした思想は「与へんとする」にあつた。：「受けんとする」思想ではなかつた。与へんとすることは、受けんとすることよりも、其の事と相並行して存した今一つの事と能く一致し易いのであつた。……

今一つの事とは即ち友誼であつた。

そこで正味の結果は次のやうであつた。曰く、此のクラブから出来るだけ

多くを「受ける」ことを唯一の目的として入会して来た人々は、失望してそして脱退して了つた。

尤も或る比較的少数の人々は、ロータリーの会員といふ立場から、実質的な商売上の利益を収めて居ると言へる。併し斯うしたことは他の殆ど如何なる会に就ても言へる所であらう。多数の人は決して職業上の利益を収めようなどとはして居ないのであつて、而かも何れの方面の人も皆な能く満足して居るのである。財政的の観点から言へばロータリーは、ポールにとつて資産項目ではなく負債項目である。

今日のロータリーの精神を以て利己的であると難ずる人は恐らく一人もないであらう。創めの精神も、利己主義からではなかつたこと毫も今日に劣るものではない。ロータリーの誘因は常に一貫して友誼であつた……

其処に常に発見される友誼であつた。



ユニティ・ビル

そして吾等の主の1905年に集まつた最初の人々ほど、この友誼を高く評価した者はないのである。

初期の数回の会合の或る一つに於て、ポールは此の新しいクラブの為に数個の候補名を提案した。その中の一つにロータリーがあつた。一般の賛成は是れに帰着して、爾後其の名は採用され来つたのである。この名の意味はクラブの出来た当初の考案を見れば直ちに明瞭である。即ち会場、座長、及び会員に就いてさへも、其れにローテーション(循環制)を定めたのであつた。会員の資格期間は一年と定めたのであつたが、会員に斯うした年限制を設けられたのは、会合への出席を確保する為めの便宜手段であつた。即ち継続して会員たる為めには改めて推薦されねばならぬといふ極めにすれば、十分興味を持つてクラブの諸義務に従はふとする会員のみが、確保されることになると思はれたからであつた。尚ほ会合に出席しなかつた会員は、50 仙の罰金を支払ふ規定であつて、其処に事情の如何は全く斟酌しないことにした。此の罰金はクラブの凡ゆる維持費を支払つて居た。

クラブ社会的の運動となる

会員は急速に増加して行つた。会員は皆な独立自營で奮闘して来た人達ばかりであつた。

そして彼等の殆ど全部が、田園又は小さな地方町から市俄古に出て来た人々であつた。ロータリーは会員達に対して、彼等が狂瀾の巷から遠く去つて少年時代を思ひ起すやうな親密な、第一義的な友誼を享樂すべき眞実絶好の機会を供するものであつた。此の点に於てロータリーは、沙漠のオーシスであつた。

クラブは健全な歩武で着々と進んだ。その間其の精神は、会員の望み得べき全部であつた。ポールは漸く自分の意図が、大きな成果を納めるであらうといふことを確信するに至つた。同時に彼の受ける信任の増大と比例して、彼は其の願望を漸次に拡張して行つた。

新たな責任感が彼の身に湧き立つた。近い友人同志の小さい集団に適合して居た綱領は、重大な一社会運動には適合しないであらうとの考が、彼の意

識の内に醒めた。ロータリーは前進しなければならぬ、其れは提供すべき何物か実質的なものを備へねばならぬ、斯う彼は考へたのであつた。

それは第三年目の初葉であつた、市俄古クラブが漸く大伸展を示し來つた時、ポールは会長の候補者となつた。これまでひた押しに押しして來た彼は、姑く收拾に転ぜんとするのであつた。やがて彼は推挙を担ひ任に就いた。時に彼の懷抱した所は三つの野心であつた。

第一に市俄古クラブの發展を益々促進すること、第二にロータリー運動を他の諸都市にまで拡充すること、第三にクラブの目的の中に社会奉仕の項目を加へること。

ロータリーの会員は、ポールと初めての相見の時、ロータリーの發展を祝して後、よく斯う言ふのであつた、「私は思ひます、創立当初の貴君はこの運動がこれ程に広く天下に弘まらうとは、お思ひにならなかつたでせう」と。また「怪我の功名」といふ諺も聞く。斯うした言表はしは、少くとも一般の印象が次のやうな所にあることを示すもののやうである。即ちロータリーの斯程の伸展は豫期されなかつたことで、従つて大部分は偶然の結果だと。

ところが斯んな真相から懸け離れた観察はないのである。実にその計画は刻苦精励の裡に案出され、強い熱意を以て実行に就けられたのであつた。

第二のクラブは桑港に設立てられた。その後頻りに増大して、1910年にはクラブ数14個に達した。時に新たな一事が決定された。それは、現存の全クラブは、一組織に聯合せねばならぬ、然る時はその聯合本部は、更に是迄以上の拡張に責任を持つことになると共に、各クラブ相互間に有意義な意見の交換を計る一つの交換所の役目を果すであらう、といふにあつた。



1911年 ポール

各クラブは、一連の決議事項を裁定した。其れに基いて各クラブは、ロータリー・クラブ全国連盟の組織と維持とを協定することを目的として開催される委員会に、夫々の代表者を送ることに一致し、尚ほ其れに対して精神上に財政上の支持を与へることを誓約した。忽ちにして委員会の召集状は發送



シカゴ大会ポスター 1910年 8月15日

され、綱領は増補作製され、出席代表者は告示され、新聞との連絡は確保され、遂に1910年8月15日に第一回ロータリー委員会は市俄古に開催されたのであった。会期は事実上三日二晩に及んだが、その最終日にポールは新組織の会長に選任され、同時に所在地を異にする9個のクラブを夫々代表する九名の理事が選定され、其処に理事会が成立したのである。

た。その間、ポールは非常に多忙な日を送ったが、それでも彼は尚ほ多くの為すべき仕事に追はれその時間を持たなかつたものであるから、結局彼は最も喫緊と認められる事項を選んで、其れに努力を集中する他はなかつた。ただ

全国連盟の第一年は、努力の大部分が合衆国内に於ける拡張の仕事に傾注され

彼が当惑したことは、彼が比較的重要と認める所が、果して妥当であるか否かといふ概念であつた。時折彼は感じたのであつた。自分の当面の努力は、新運動に割切する、一層完全な哲学の形成に向つて払ふべきではあるまいか、拡張其他の諸点は成行に任せるか、或は後の仕事とすべきではあるまいかと。併しながら拡張の趨勢は彼を追立てること急で、機会は絶へず彼の傾倒を要求し続けたのであつた。

活動から隠退へ

オレゴン州のポートルランドで開かれた第2回連盟委員会で、ポールは再び会長に選挙され、発展と拡張の多忙な一年が再び続けられた。かくて第二期の終末に近付いた時、ポールは自分の活動は先づ果し終つたことを自覚し、早晩隠退しやうと決心した。既にして彼の健康も良くなかつた。實際彼の健康状態は、辛うじて彼自身を持ち堪へて行くだけのものではあつた。彼はロータリーの組織が包容した現在の地盤を、合衆国内許りでなく、加奈陀、英吉

利、及愛蘭にまで亘つて確立すべく熱烈な努力を致したのであつた。そして理想に対する7年といふ長い間の献身的努力は、1912年の夏遂にクライマックスに達した。

ダラスに於ける第三回連盟委員会席上のポールが、その幻想の創造物を、次の主脳機関に委譲し終つた時、彼は初めて救はれたやうに感じたのであつた。同時にその時の彼に或る悲哀感が伴つたといふことは無理のない所であつたらう。遂に彼は彼の小務を果した、そして隠退するのであつた。

恰度その頃に、安息と静養とに好適な森深い丘上の家が、彼の安住を待つて居たといふことは、彼にとつて望外の幸福であつた。田園に生ひ立つた人間には、田園を恋ふるホームシックに罹る時があるものだ。時は正に彼にとつて休養すべき絶好の秋であつた。

以後の彼は、出来得る限り表面に立たぬやうに、出来得る限り謙讓の態度を以て、ロータリーに関する諸事項を追究し、其の進歩の方法を研鑽し、時折は筆を論文に托し、依つて以てロータリアン本来の職分を尽さうと決心した。義務といふ道は、彼にとつては、極く自然な希望の道と一致するもので

あつた。凡ゆる方面から考へ尽した今日、尚ほ彼は自分の断定が正しいものであつたことを信ずるのである。採用して来た課程は、其れに就く人々の固有する資質を培養育成することに、最も応はしく編成されてあつた、と彼は確信し満足するものである。

併し茲に一つ完全な安心を裏切る反動がある。以上ポール・ハリスとは如何なる人間かといふことに就て、相当に能く考察して来た。ところで彼は何故に国際委員会に出席しないのであるか。彼はロータリーに対する信念を失つたのか、それとも現在の統制に対して冷淡であるのか。一髓どうしたといふ訳か。

彼は健康上仕事に堪へるだけの能力を失つて居るのだといふ説が、緩漫ながら次第に強く行はれるやうになつた。そして彼に会ふ或る人々は、彼が未だ



ポートランド大会にて

起つて動き廻つて居ることを意外に思ふらしいのであつた。また他のロータリアンの如きは時折次のやうなことで考へる。恐らく彼の隠遁は、彼の例の不可思議を待つて居る人々の想像に適合するやうな、不可思議の魅惑を表現した美しい絵巻を描き上げる為めの、根深い計画の一部に外ならないのであらうと。

その不可思議を闡明することが、此の物語の一つの目的であつた。そして其れは数年この方、或る方面の希望によつて次第に強く促され来つた結果であつた。暫くの間ポールは、此の仕事が誰か他の人の手によつて挙げられることを望んで居た。彼は自分で自分の経歴を書くといふことの、自然的な不愉快を初めて経験した。彼の人生物語と、そしてロータリーの発端の物語とを要求する感情がどんなものであつたかといふことを、筆者は常に能く洞察して居る。ポールの従事して来た仕事を良く識つて居る人々にとつては、其処に何の不可思議もないのである。彼等はポールの上に課せられた多くの要求と、彼が其れ等に如何に応酬して行つたかを能く知つて居る。

親心

彼の生涯にとつて最も顕著な出来事は、彼に愛らしい娘が出来たといふことであつた。

仮りに彼の生涯は如何に波瀾に富み、如何に色彩に豊かであつたとしても、若し此の娘の誕生がなかつたならば、結局平凡の域を脱して居なかつたであらう。附近の教会から聞へて来る混声の四重奏の外に頌ふ人もなく、唯僅かに幾人かの人に哀悼されつつ寂しくも墓場に行つたであらう。エマーソンは吾等に遺した其の不朽の名篇「償ひ」に於いて教へて居る、畢竟最後の精算に至れば、総ての物事は平均してしまふ、凡ゆる上りに対しては其れだけの下りがあり、凡ゆる温熱には冷寒があり、善には悪があり、悲しみには楽しみがある、そして数多い平凡な親達も、輝やかしい苗裔に依つて恵まれることが出来たのだと。

そしてそれはボールに於ても同じであつた。彼の生涯は、彼の幻想の子の誕生によつて有意義なものにされたのだ……幻想の子、輝きに満てる娘、彼

女は1905年2月23日の夜、奇しき名ロータリーを命名された。

娘は未だ成年にすら達して居ない。而かも其の名声は早くも世界に響いて、今や此の早熟なミンクスを周る熱烈な愛人は、其の数13萬豫に及び、43個国民を通ずる慎重誠実の人ばかりである。そして彼等は敢へて言ふ、絶美だと。また言ふ、彼女は早晩世界萬人のスキートハートたるであらうと。

ポールに屢々訊ねられる二つの問ひがある。「ロータリーを組織した最初の目的は何であつたか」。又「創設者は、ロータリーが何時か今日の如くになるであらうと豫想したか」

第一の問ひに答へてポールは斯う言ふ……恰度血と肉とで出来た眞実の子供の父が言ふであらうやうに、其処には多くの思想があつた、そして何れの二つも正確に一致すると云ふものではなかつたと。過程は、一觀念の進化であつた。之を自然の父に就いて見れば、彼は生れやうとする子供に就いて誇らしい気持で多くを考へ得るかも知れないが、其の豫想物が眼前の現実として表はれ来たるまでは、彼の深い愛着は動かないであらう。そして此の愛着を覚えた曉に於いて始めて、愛兒の成長に選れる恩愛の絆の緊張を知るの

ある。

ポールも其の幻想の創造物に対して、その胎生時代から既に信賴を持ち、誇らしい気持を感じた。併し眞実として言明し得る所は、矢張りその創造物が豫想から現実に生れ出でて始めて、彼の深い愛着は引かれたのであつた。

1900年に、一人代表制に於いて構成されたクラブの考案が、彼の頭腦の中に初めて閃いた時、其の功利的な半面が彼を強く刺戟したのであつた。此の方法に限る、と彼は思つた。

彼は未見の外来者として未知の土地市俄古に、法律の職業に身を立てむとして来たのであつた。知己を持たない不利益を、彼は惨めにも切實に感ぜざるを得なかつた。技量に於ても忍耐に於いても何等彼に勝るところのなかつた多くの若い弁護士達は、皆な知己といふ資本から挙がる實質的な配当に恵られて居たのであつた。この間ポールたるものにとつては、立派な宴席の食卓から落ち來つた如き麵麴屑に、自らを満足させねばならなかつたことは亦已むを得ないことであつたのだ。

ポールは夙に成功は榮譽である、失敗は恥蓋であると教へられて居た、彼

は成功を仰望した。画面に表はれて居たものは、唯二つの形象であつた。眼前特定の必需と未然の観念形態とだ。そして前者は更に強い訴へであつた。併し斯うしたロータリーの胎生時代約五年間を閲する中に、必需は次第に急迫の度を感じ、また其処に新たなる人物が現はれて来た。それはシルヴェスター、ハリ、ガス、ハイラム其他であつた。一人代表制の功利的な半面は、尚ほ続き得るものであつたらうが、それはポール一個の為めばかりでなく、彼等も亦た分配に与らなければならなかつた。其処に這の偉大なる日は来たのであつた。ロータリーは誕生した。観念は愈々現実に飛び揚つたのだ。若し彼が幻想の創造物より成功を一層多く愛したとしたなら、彼は不自然の父であつたらう。併しポールは決して不自然な父ではなかつた。彼とそして数百の他のロータリアンとは……彼等がロータリーから受けた孝養と忠勤とはポールが浴した所より遥かに少かつたに拘らず……能く数年の間彼女の為めに払ふ無限の犠牲を吝まなかつたのである。その代りには彼等はロータリーの中に、彼等の無尽の宝庫を見出だしたのであつた。

次に第二の問ひに対しては、ポールは答へるであらう、1905年2月2

3日の彼は、広く世界的なロータリーなるものには全く思ひ及ばなかつたと。併し彼はまた偽る所なく言ふことが出来る、彼は疾くに心に期する所があつたと。創立第一年に彼は、シヤクソンヴェールに一クラブを建設することを要求すべく、親友ジョージ・クラークに突撃した、そして未だ二年を経ざる時、紐育に於ける彼の猛運動は開始された。

茲に降べた物語は、実にロータリーが如何にして又た何時出来たかの物語である。若し其処に、少年時代と学生時代とそして実務時代とに於ける幾多の友好といふ事実がなかつたならば、恐くはロータリーの今日を致すことがなかつたであらう。抑も職業別の考案なるものは、ポールが市俄古に於いて続けた生存の爲めの苦闘に対する反動であつた。そして其の広き世界的な見解は、彼が多くの土地に足跡を印した五年間の放浪生活から生れた自然的な成果である。

第四編

妻と家庭

相変らず山野を歩き廻ることの好きであつた。ポールは、1907年に市俄古のプレイリー・クラブが組織された時、其の創立委員になつた。彼は今日でも此のクラブのお陰で、自分の愛好する妻と家とを得る機会に恵まれたのだと信じて居る。当時彼は都合が許しさへすれば、毎週土曜日の午後きつとプレイリーの会員達と共に、市俄古に近い原野の散歩に出掛けるのを常とした。彼はミリガン湖に沿ふインディアナ側の砂山が特に好きであつたので、能く其処に滞在して日夜を健康の更新と、戸外の遊樂との為めに暮らした。或る冬も半ばの土曜日の午後、ビヴァーリー・ヒルス・モーガン・パークを友人達と散策して居た彼は、偶然或る近くの丘を滑走して居た数名の子供等のコースティングを見た。

その光景が彼の脳裏に躍如として蘇生させたものは、彼のバーモントに於

ける少年時代であつた。その時彼は思つた、何時か自分は此の地に住み度くなるであらうと。

それから暫く後、彼は矢張り土曜の午後の散策中に、ジーンを見出した。ジーンとは筆者が前にジョン及びアンニー・タムソンの第五番目の娘として紹介して

置いたあのジーンであつて、彼女は此の時から3年程前に、遙遙蘇蘭のエディンバラから兄弟姉妹と共に移住して来て居たのであつた。ポールとの出会いの日から3ヶ月目にはジーンはポール・ハリス夫人となり、其の後二年許り経ち、ポールは森茂き小山の頂きに彼女の為めの家を建てたのだ。その家は、ジーンが吸々の声を上げたエディンバラの美しい街に因んで「カムリー・バンク」と名付けられた。読者の氣付かれる通り、ポールはロータリーを国際化するに先立つて家庭を国際化したのだつた。此処にも彼の猟奇的な血潮と独特な自家療法とが躍動して居る。彼は切望する、彼とジーンとの国際的な



ジーン・ハリス

結婚が、ロータリーにとつての善い前兆であることを。

二人の婦人がポールには根強い影響を与へた、彼の祖母とそして妻とだ。ポールの蘇蘭生れの妻は、一身の安定に就いて吾等の国家に感謝せねばならぬことを能く心得て居るが、それでも尚ほ懐しいバツグパイプの音は、彼女の我知らぬ足拍子を誘ひ、アンニー・ローリーの旋律は、彼女の頬に薔薇色の血潮を脹らせる。先祖の伝統に真実な彼女は、苟くも打棄てて置けぬと認めたとすれば、直ちに之れに赴くのであつた。事件の一刹那に揮身の力を動員し得る彼女である。人の知る蘇蘭人の吝嗇は、女丈夫たるジーンの心持には全く宿つて居なかつた。

彼女の没我性と感激性とを説明する一つの幼な語りがある。

幼い彼女には一人の不具の遊び友達があつた。彼女は好んで此の片輪の娘の友達ともなり保護者ともなつて居た。毎日学校へ通ふ途中、悪い道の所などでは、哀れな娘はジーンに歩行を助けられるのであつた。学校が家から遠い所にあつたため、子供等は中食の弁当を買ふ幾らかの金を持たされて行くのであつた。

或る日のこと、浮か浮かと道草を喰つて居た二人は、ふと時刻の遅れていることに気がついた。殊に片輪の子供には間に合はないと思はれた。そこでジーンは気の毒な友達に金を持つて居るかと思ねると、無いと答へた。咄嗟にジーンが思ひ付いたのは自分の弁当代であつた。彼女は何の躊躇もなく通り掛りの馬車を呼び止めて、不自由な友達を乗り込ませ、其の手に金を握らせてしまつてから、自分は沿道を勇敢に走つたのであつた。幸にして二人とも登校時間には間に合つたが、その代りジーンは其の日断食せねばならなかつた。

不朽の烈女フローラ・マクドナルドもこれ以上のことは出来なかつたらう。ジーンは永久に斯うした女である。愛又は義務の呼ぶ所、其処が如何なる所であつても、彼女は完全に身を施げ出すのである。

今日までに彼女の武士的気魂が自らを表現した場合は数限りない。其れは常に用意して躍動を待つて居るのだ。この彼女の精神と情緒とは、或る日其の声価を痛烈に發揮したことがあつた。其れを目の当り見せられたのは、辻る急坂を無理に上らうとして、残酷に馬を鞭ちつつ叱咤して居た二頭引の馬

車の御者であつた。全く思ひもよらない場合へ飛び出した此の激昂した闘士のやうな小さい娘から受けた鎮撫を、御者は容易に忘れ得なかつたであらう。斯うしたジーンの必要と思ふ場合に發揮する勇往な世話焼きと、さうした場合に身を施げ出して、了ふ彼女の性質とは、常にポールの心配の種子になつて居る。殊に彼女が市俄古の町に出掛ける場合などは、ポールを酷く心配させるのである。その帰りの郊外電車内に彼女を座らせて了ふまでは、ポールは決して安心が出来ないのである。ポールの見る所では、彼女の義務観念は彼女自身の安全などといふことを忽ち忘れさせて了ふらしいのだ。併しジーンは心からの家庭的婦人で日常の健全な仕事を好み、亦た愛書家でもある。

彼女とポールとは通常夜の時間を、「カムリー・バンク」で読書に過ごすのが、



読書するポールとジーン



1926年ポールとジーン
バミューダ

ポール一人で読書する時には、彼女はクツク・カウンテイー慈善病院に收容されて居る父の無い赤子達の衣服を作るために、忙しい指先の仕事に従ふのが常である。今日までに彼女は此の種の衣服を何百枚仕立てたことだらう。若しジーンが斯うしたタイプの婦人でなかつたとしたら、ポールの歩き道は異つたものになつて居たかも知れない。

ポールとジーンとは過去二年間を費して、合衆国の全般及びバームダ、墨西哥、玫瑰の各ロータリー・クラブを歴訪した。今から二年間に国際ロータリーの理事会は、其の費用でポール夫妻を世界周遊に招待するのを決議をした。折悪しく其の時の二人は、其の好意を受けることが出来なかつたが、恐らく余り遠くない将来に於いて同じ旅路に上ることが出来るであらう。

帰省

フォーリング・フォードの停車場で、ユラユラ揺れる手提げランプを持ったあの祖父が、セシルとポールといふ二人の少年を連れて息子のジョージを迎へたあの夏の夜から今日までに、半世紀より余程多い年月が流れた。その1925年の春、ポールとジーンとはあの旧い家を訪れた。見廻はす四囲の様子はたとえ変わつたところもない。屋敷も80年の昔に祖父が建てたままの堅牢さで残つて居た。ポールが戸外に待つて居る友達の仲間に加はるために、よく夜更けて抜け出したあの台所の窓も昔のままだ。

ポールはあの恵み深い林檎の木陰を思ひ浮べた。暑い夏の午後の素足に如何にも冷え冷えと感じたあの繁りかへつた緑の草叢を思ひ浮べた。胡桃の木も砂糖楓も昔と同じ務めをして居た。



祖父ハワード邸・裏庭から

彼は子供等の泳ぎ場所にして居た狭い淵に行つて見た。岩角に跳ね板を仕掛けて、其処から冷い暗い水の中に飛込んだあの当時、彼とそして他の少年達は、斯うして少年時代の毎日を生き、また経過したのであつた。昔のフオックス池今のエルフィン湖も、妻と共に見舞つた。其処は幼い彼がスケートをした所であつた。彼が妻に指し示す彼方には、うねつた山道の一ぶくする所と、其下に彼のコースチングの場所が見えた。

二人はツルー・テムパー・インといふ現代的な料亭で食事を摂つた。今日此の料亭が占めて居る場所は、嘗て馱馬車時代の立場茶屋のあつた所である。其の後間もなくラツトランド・ロータリークラブは、此の家で会合を催した。

それから二人はポールの日曜学校の先生を問ひ、尚ほ連立つて他の友人達やら学校やら教会やらを訪れ、そしてあのフェイの昔の家をも尋ねた。

此の機会に彼等が、祖父と祖母との共に安息して居る小山の中腹の墓地に詣でたことは言ふまでもない。

思へば楽しみと悲しみの不思議な世界である。其処に人生は常に何等かの価値を持つて居る、唯吾等は其れを見出ださへすればよいのだ。其れは銀

行の勘定の中にあるのでもなければ、何処の所有に任されて居るのでもない。

ポールが過ぐる数十年を振り返つて見る時、彼の眼底を圧して大きく広がる一つの事は、あの揃つて人生の旅路を歩み尽した、そうして一人の如何にも気の荒かつた、いたづら好きな夢想家の少年の爲めに、飽くまで同情深く飽くまで親切であつたところの、ニューイングランドの老ひた二人のあの忍耐強い犠牲的な人生奉仕である。

ポールは1919年の夏デンヴァアで、母の最期を見守りつつ其の枕頭に侍した。ジョージとコーネリアとは、半世紀余りを共々に暮らしたのであつた。コーネリアがもう助らないと云ふ時、ジョージの手厚い看護は、彼女の凡ゆる要求を満したのであつた。此の事は彼等の子供等の脳裏に、永遠に感謝の記憶として残るであらう。1926年の12月にジョージも亦た彼岸に安らふ彼女の側に逝つた。

ジンとポールとは、最早15年といふ長い年月を此の森茂き丘上の家に住み続けたので、其の新味はいつの間にか朽ちて了つて居る。彼等の住居の南の、以前は強い樫の大木や野生のクラブ樹や塩膚木などが生ひ茂つて居た



THE PATH FROM "COMELY BANK" TO THE HOME
OF SILVESTER—THROUGH THE OAK WOOD

カムリーバンクへの路

はれつする近所づき合ひを、維持するに充分な他の友人達も住んで居る。僅かに五丁許り隔つて其処にはジーンの父母や兄弟姉妹の家があるので、ポールが日々の勤の為に市俄古に出て行つて居る間には、ジーンは此の昔の家族達と午餐を共にすることも出来る。

此処ロングウツド・ドライヴにはドライヴだけの威容と美とがあ

岡に、脚か華美な煉瓦造の住宅が二棟立つて居る。近年になつて附近の其処此処に貸室向のビルディングなどが現はれ初めたので、古い住人達は自分等の身边が何となくさはつき出したやうに感じて居る。併しこの細長い森の南端には、市俄古ロータリー・クラブ第一次の会長シルヴエスター・シール夫妻が住まつて居り、斯うした小さな社会生活の特徴である、互ひに訪ひつ問

る。街から二百尺の高さにある小山の頂に散在する家々は、既に一つの風致である。ドライヴの末までの登り道は多少難儀であるが、ジーンとポールは寧ろ此処に大きな有難味を感じて居る。北東14哩の彼方にあるあの激動の大都市に出て働く人間にとつては、斯うした住ひが何れ程に必要であるかを思ふ時、其処に当然の幸福感がなければならぬのだ。偏へに隣人達の為めに希ふところは、ジーンとポールとが其の家に見出だしたと同じやうな幸福を、彼等も亦其の新らしい家に見出だすやうにいふことである。

約6平方哩の面積を持つモーガンパーク・ビヴァーリー・ヒルス区域は、今や閑静を求めて移り住んで来た約2萬の人々の疇になつて居る。2萬の住民と、其の親族とそして友人知己とは、彼等の愉快な土曜日曜の午後を、可なり騒がしいものにする訳である。初め街には商店一軒を、理想の住宅地と



サンルームのポールとジーン

考へて来た旧い住人達にとつては殊更其れが顕著な事実となつて来た。そして其れは永久に拡張して行く大都會の近郊に於ての生活には、常に來たるべき成行に過ぎない。

友誼

弦に最も嬉しいことは、我がロングウツド・ドライブの10856番地に於いて多くの誠実な熱心なロータリアン達を待設けることである。ジーンとポールとは今日までに遠來の外人客達に何れ程楽しませられたか知れない。珍客は多くて、或時などはハリス家の客室に六個国が代表されて居たこともあつた。外人客の中で特に多いのは英国人である。それはジーンが、其の国の風習を能く知つて居り、其の国の人々の見地



カムリーバンクでの
ロータリー・ランチ

に自然の同感が持てるからであつた。無上の悦楽は、ヒースの花咲く可愛い島国からの旅人と、爐火の影に吸ふ一碗のコーヒーであつた。その時得意の女王は、アンニー・ローリーを歌ふ、軽く低く。

人生の最善なるものは、友誼の楽しみだ。友誼を国境や信仰や政治的党心に限るとすれば、其れは余りに滑稽だ。友誼は依估を知らない。友誼は国境だとか宗教だとかの考慮を一切超越する。友誼は強過ぎるといふこと、多過ぎるといふことは有り得ない、友誼は常に忠実な碑女だ、其れは人生を拡充しスキートにするものだ。ポールの熱烈な希望は、世界の総ての文明国に、新しい友人を数へ挙げ得るの日まで、生き永らへたいといふことだとは、彼の屢々口にする所である。

行動の教義ロータリー

説得の力は、言葉に少く行動に多い、とポールは信ずるが故に、彼に他の人々の向つて推薦する生活をば、先づ躬自ら生きやうと試みるのである。即

ち彼は聊か自分の仕事をする上に於て、実践的ロータリー式方法を追ふものである。

彼は今まで多くの組織に關係して實際に働いて来た。その中には市俄古実業協会も含まれて居る。また彼は数年来市俄古弁護士協会、イリノイス州弁護士協会、及び米国弁護士協会の会員になつて居る。就中、市俄古弁護士協会では、其の職業道德委員の椅子に在ること5年に及んで、現在は其の委員長を勤めて居る。此の地位は、彼が同業の会員間にロータリーの理想を鼓吹する上に、絶好の機会を供するものである。市俄古市内の弁護士の数は、7千乃至8千に及んで居るのであるから、前途洋々たるものが期待されるであらう。

ポールは現在また、市俄古の第一ナショナル・バンク・ビルディング内に在るハリス・ラインハルト及びラツセル法律事務所の上級組合員になつて居る。彼と組合つて居る是れ等の弁護士は、皆な所謂適者生存の原理を實際に説明して居る人達である。フレッド・ラインハルトは、市俄古ロータリー・クラブの理事を勤めて居るが、其の真摯にして忠実な平生の努力振りは、彼

をして充分に名をなさしめて居る。フレッドはまた市俄古に於ける他の有名な諸クラブの会員にもなつて居る。

ポールの關係して居る組合や他の團體の人々は、普通ならばポールの責任に属する筈の萬端の事柄を、能く代つて処理してくれる為め、古參の彼はロータリー其他の外部の仕事に安心して従ふことが出来る。尤も斯うした不行届には、其処に金銭上の損害が伴ふこともある。法律は吝氣深い処女だと世間で言はれて居るが、此のロータリー創始者にとつては、其れは確かに信頼し切つた娘であつた。

将来は如何

来るべき1928年4月19日には、ポールは第64回目の誕生日を祝ふことになるが、その時は、彼が法律の実務に従事することに正に三分の一世紀に及ぶ時である。彼の余生には、果して何年間が残されて居るであらうか。

それは所詮想像してみる以上に断定することは出来ない。彼の祖父は65歳

で、父は84歳で没した。また祖父が隠退したのは50台で、父は40台であつた。ポールは、60歳で隠退せねばならぬであらうか。更に将来に向つて計を立つべきであらうか。將た又成行に任すべきであらうか。

彼個人の感情では、隠退してはならないのである。同時に成行主義に身を委ねることは、彼の許せない所である。重要な時代：恐らく最も重要な時代は、將に今後に来るのだ、今後に残して居る何年かこそが、正に收穫季節でなければならぬ、と彼は感じて居る。彼の人生に対する興味は毫も衰へては居ない、唯或る点に於て質が變つただけである。彼は自分の職業に対する興味を選び取つて、他の人生の細事に対しては、漸次に自分自身を解放して行かうと思つて居る。

ポールの父も祖父も、ポールが其の常道を離れた行程に於て経験した程の苦難は知らなかつた。父の如きは殊に箱入であつた。父も祖父も、ポール程に生き永らへて為すべき多くの必要を持たなかつた：人生半ばを過ぎて尚ほ且つ為すべき多くの物事を持つ点に於て、祖父も父もポールには及ばなかつた。

ロータリーは、正にこれから遼遠の前途を行かねばならぬ。此の運動を目にして、一つの完成された産物と考へる人は、所詮近視眼者である。過去の何処にも、斯うした見解を正当と証明するやうなものはない。此の運動と同一體になつて働いて来た人々は、皆み此れが漸く緒に就いたばかりであることを思ふのである。ロータリーの光輝を放つ偉観は、正に将来にこそ期待されねばならぬのである。約20年間の過去に於て、43個の国民に涉つた此の運動は、更に其の澎湃たるうねりを續けて、世界の全土にまで到達すべき未来を持たねばならぬ。そして最早其処に征服すべき一つの国民も残らぬに至つた時、今度は既に開發された領土に向つて、一層周約的な耕耘を施すべき時であらう。かくて為すべき事は永遠に充滿して居る。人類の向上に役立つたんとするの運動の唯一の論理的觀念は、全部を包容し得る觀念である。ロータリーは総ての人間の総ての生活に貢献する運動であること以外に、何物であることにも満足してはならない。其の名づけ親達が、ロータリーを以て、総てに浸溶し得る一勢力だと考ふるとも、其れが決して徒らな迷夢ではない程に、其れ程にロータリーの要求は簡明で、其れ程に其の教義は普遍的に受

け容れられ易いものである。此の創設者が、この勢力の普遍化を眼前に見得るまで、生き永らへたいと願ふことも、亦当然ではないか。

人は年令の進行と共に、漸次に国家的の事項に興味を持つようになり、それに依つて円熟老成になつて行かねばならぬ、之れはシセロの論である。大多数の人の生涯には、過度期と唱へられる一時代が必ず来るものである。人生に対する興味が変化する時代である。

曾ては興味を繋いで居た事物が、いつか関係の薄い方に変つて来る時代である。偉大な成功に赴くか、恥づべき失敗に落ちるかかの岐路を示すところの、所謂人生の危機である。それまでは甚だ有益であつた多くの人生が、此の転換期以後に於て空虚となり、或ひは更に悲境に赴く。又は反対に、或る人生は、嘗て知らなかつた欄慢たる世界に咲き出でる。

シセロの言ふ所は、決して過ぎては居ないとポールは思ふのである。實際彼の考へる所では、晩年に及んでから自らを満足させる唯一の可能な望みは、狭い興味に替ゆるに広い興味を以てする所にあると思はれる。古往今来最大の競技は、人生の競技である。其れはクリケットに勝る、ベースボールに勝

る、ゴルフに勝る。そして又其れは終結のない唯一無二の競技である。

ロータリーは、多くの中年の人々に対して、有利な従つて幸福な人生に必要な一個の原動力となつて来た。ポールは当然感ずるのである、自分は今や人生の路角を自分の主義に追隨して廻らなければならぬと。

ロータリーの創設者は、常に経験の修業者であつた。彼の実験の多くは失敗で、唯或る部分のみが成功であつた。そしてその成功した実験の中でも、更に僅かな一部のみが有益であることを示したに過ぎなかつた。尚ほ彼は生命の続く限り、人生の実験室に籠つて其の実験を続けやうとする。

併しポールは、只管将来の時代又は其の人々へのみ望みを囑し心を奪はれて、彼自身のことを考へる時も意思も持たないものと印象されてはならない。彼の渴望して居る有益な事以外にもいろいろの物がある。尤も詮じ詰めれば其れ等の総てが有益ではある。茲に言ふ所は、肉體の健全を維持するに必要なものの謂である。其れ無くしては如何なる有益も有り得ない。世にも不思議なるものは、人間が依て以て他人にも仕へ自分自身にも幸福に仕へ得るのは此の自然の給与である。斯くて利己は美事に制御転嫁されて衆利への没我

と一致する。

人は肉體上の福祉に食物を必要とすると同時に、其の精神的富裕に他人の思想を必要とする。或は記述により、或は読書により或は会談を通じ、思想の間断なき交換によつて、精神は益々其の力と富とを積んで行く蓋し良書の恵みを知らない人は、良く組織された人間社会の最大の幸運の一つを逸する人である。

自然を愛好する人にとつては、凡ゆる景色に美感と快感とがある、降る雨の滴にも慰樂がある。白日の下に夕霧の影に、炎熱の中に嚴寒の下に、寂寛の野に嵐の庭に、凡ゆる姿に於て自然を愛する者こそ其の眞の愛好者である。ポールも自然を熱愛する。小山の頂に立つて蒼茫なる田園を見渡す時、其処に彼の無上の慰樂がある。同時に彼は逆巻く怒濤に快哉を呼び得る点に於てジーンに劣るものではない。彼は萬物生々の春を小鳥の歌と共に愛するけれど、色彩に輝く十月も蟋蟀の声と共に亦た之れを愛する。霧深い落葉の十一月も好く、雪の一月も亦た甚だ佳である。

要するに彼にとつては四季夫々独特の魅惑を持ち、全自然は懐しい無限の

パノラマである。彼は自然から無限の悦樂を与へられる許りでなく、活動に必要な精根を吹き込まれる。チャールス・ドイツケンスは今尚ほ彼の愛敬の標的であるが、併し彼の或る傾向に最も良く合するものとしてダヴィット・グレイソンに如くはない。

老若に拘らず総ての人に共通する最大の責任は、其の徳操上、精神上、拉到肉體上の資質を能く保持して、以て其れ等を最も善く利用することであると、斯うポールは永い年月の間考へて居る。或る個人の素養が如何なるものであるかといふことよりも、寧ろ其の素養を如何に善用するかが問題である。比較的小さい或ひは少ない能力を持つに過ぎない人でも、さうした能力を良く効果的に転用する人であるならば、大いに称揚さるべきであると同時に、甚だ豊富な資源に恵まれて居るとも、其れ等を放縱に蕩尽する如き人は、自から省みて恥づべきである。

ポールは信ずる、自分の余生が永いにせよ短かにせよ、其れは自分が飽くまで善用せねばならぬ面の信託財産であると。又信ずる、自分の精神的富裕は肉體の健全に依附し、そして此の両者は共に懸つて自分の堅固な徳操の

上に在ると。そして彼は欲する、精神上拉に肉體上の衛生法則を能く遵守することに依り、且つは友誼を愛敬する情操に永久の生氣を保持することに依つて、出来得る限り自分の徳操を健全にし、出来得る限り自分の精神拉に肉體を強力にせねばならぬと。更に彼は真摯にそして熱烈に希望する、自分と自分の妻とが、遠き昔祖父と祖母とが歩いたと同じやうに、人生の旅路の残光をば打揃つて追つて行かうと。

終

ロータリーの創設者 ポール・ハリス

この「ロータリーの創設者 ポール・ハリス」はポール・ハリスによって書かれた「The Founder of Rotary (1928年出版)」を米山梅吉氏よって翻訳されたものです。ポール最初の著作本で少年時代からロータリー設立までの回想録です。ロータリーにとって貴重な歴史的文献の一つといえます。

尚、この電子書籍子(ロータリー電子文庫)は原文に歴史的写真等を付け加え、PC上で閲覧できるように葉書サイズで縦書き編集・作成したものです。ぜひ一度はお読みください。また、本文は田中毅P.GのHP「ロータリーの



源流」に収録分を、また各写真も同じく「源流」として「奉仕の1世紀」、「Rotary Global History Fellowship」等の収録分から利用させていただきました。

(2007年3月10日 作成)

2660地区 大阪南RC Y. 木村

The Founder of
Rotary

ロータリーの創設者
ポール・ハリス

米山梅吉 訳

電子文庫化 2007/03
大阪南ロータリークラブ